

厳島宣言

宮島ルネサンス計画

厳島

令和4(2022)年3月
廿日市市観光課



嚴島

はじめに

本市では、平成27(2015)年1月に策定した「廿日市市観光振興基本計画」に基づき、観光施策を進めていますが、基本計画で想定していない新型コロナウイルス感染症の影響が長期に及び、観光産業は、深刻な影響を受けています。特に、これまで国内外から多くの観光客が訪れていた宮島は観光客が激減しており、宮島の「再生、復興」のため、ポストコロナを見据えた「宮島ルネサンス計画」を策定しました。

宮島ルネサンス計画は、世界遺産宮島の自然・文化・歴史などの普遍的価値を活かした「宮島らしい」観光を推進し、持続可能な観光地域づくりのために目指すべき方向性を定めた令和6(2024)年度までのアクションプランです。

宮島の「再生、復興」のスタートとなり、市内の観光産業の持続的な発展につながるよう、様々な主体と連携し、積極的に推進します。

厳島宮言

宮島ルネサンス計画

はじめに……………1

コロナ禍前の宮島を訪れる観光客の状況の整理……………5

- (1) 宮島の来島者数の経年変化……………6
- (2) 繁忙期と閑散期の比較……………7

コロナ禍における観光意識・ニーズの変化……………11

- (1) 新型コロナウイルスに関する動き……………12
- (2) 宮島来島者数の推移……………13
- (3) 国際観光客数の推移見込み……………13
- (4) 国内観光客の旅行意識・ニーズの変化……………14
- (5) 世界各国の旅行意識・ニーズの変化……………15
- (6) 国の方向性・今後の施策アイデア……………16
- (7) コロナ後の観光振興のキーワード整理……………17

宮島ルネサンス計画の全体方針……………19

- (1) 廿日市市観光振興基本計画の内容……………20
- (2) 基本方針……………21





4

宮島ルネサンス計画の具体的方策

23

(方策1) コロナ後のコンテンツの充実・発信 24

【具体的事業】

- ア. コロナ後のコンテンツ拡充事業
- イ. まなびの島宮島創出事業
- ウ. 「宮島復活」プロモーション事業
- エ. 上質なインバウンドサービス創出事業

(方策2) 分散型観光の推進 29

【具体的事業】

- ア. デジタル技術等を用いた混雑緩和・快適性向上事業
- イ. 閑散期や朝・夜の積極的な受入拡大事業

(方策3) 宮島の価値の保全 32

【具体的事業】

- ア. 「みんなで守る宮島」推進事業
- イ. 持続可能な観光地域づくり事業

(方策4) 宮島の価値の継承 35

【具体的事業】

- ア. 全島博物館実現化事業
- イ. エコツアーリズム推進事業

(方策5) 観光産業の振興・育成 38

【具体的事業】

- ア. 観光産業の生産性向上事業
- イ. 観光人材育成事業

(方策6) 観光推進体制の整備 41

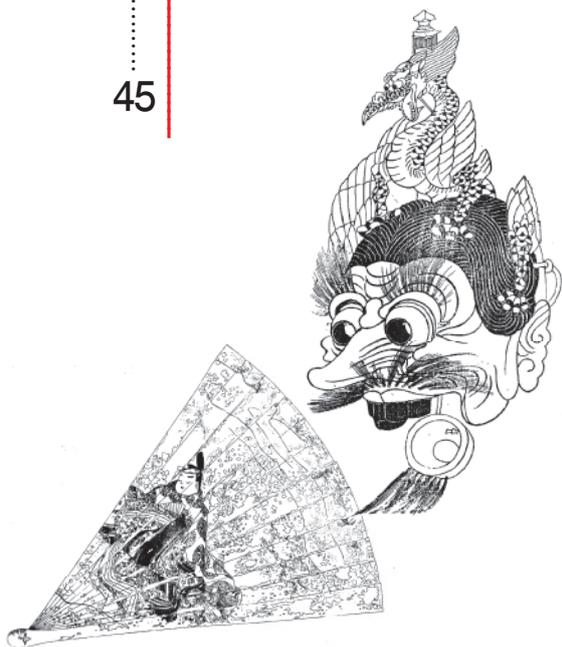
【具体的事業】

- ア. DMO設立事業
- イ. 観光産業における地域内経済循環促進事業

5 参考資料

45

- ・ 宮島ルネサンス計画策定検討会設置要綱 46
- ・ 宮島ルネサンス計画策定検討会開催経緯 46
- ・ 宮島ルネサンス計画策定検討会 名簿 47

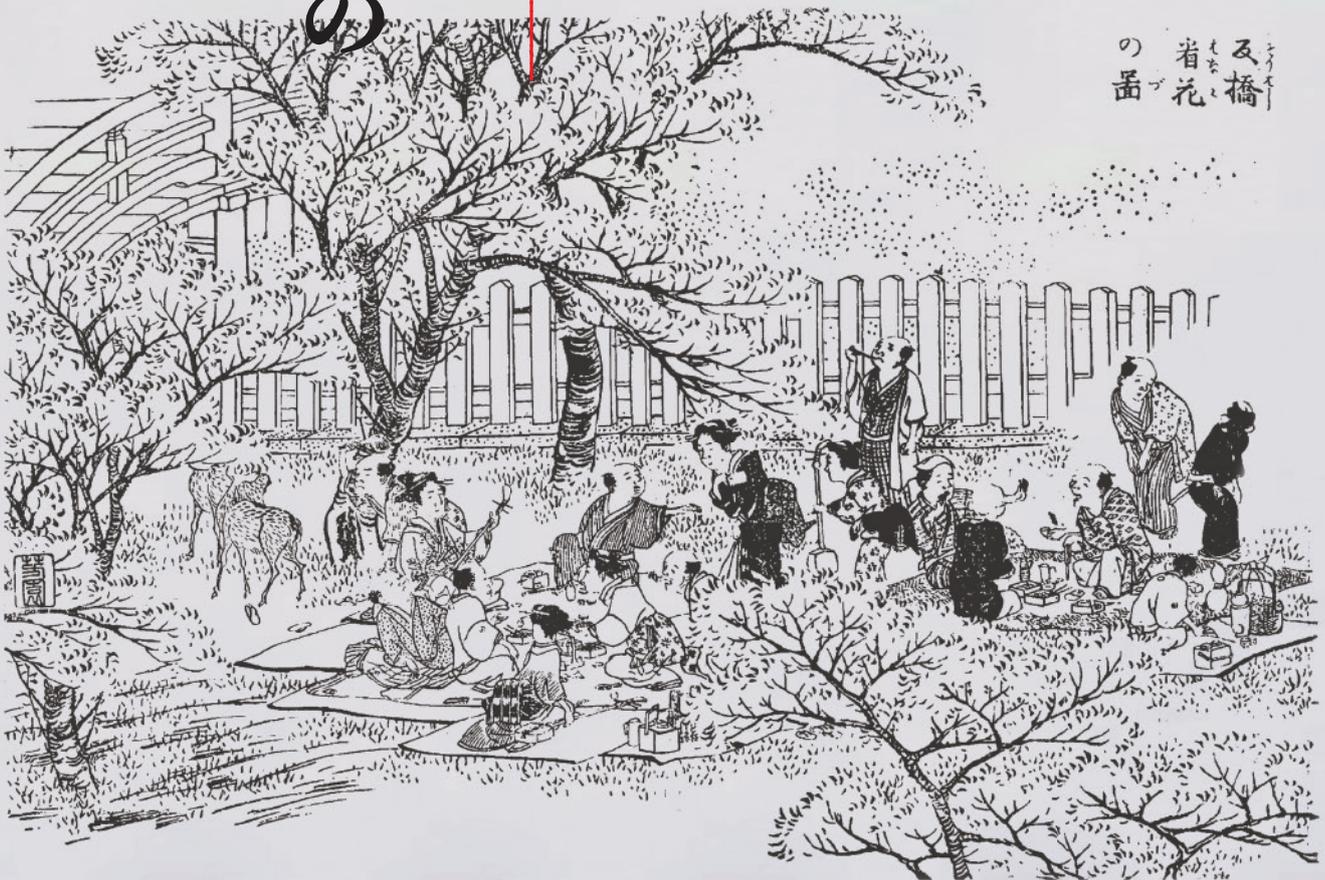


1

コロナ禍前の 宮島を訪れる観光客の 状況の整理

- (1) 宮島の来島者数の経年変化 6
- (2) 繁忙期と閑散期の比較 7

の 省 及
番 花 橋



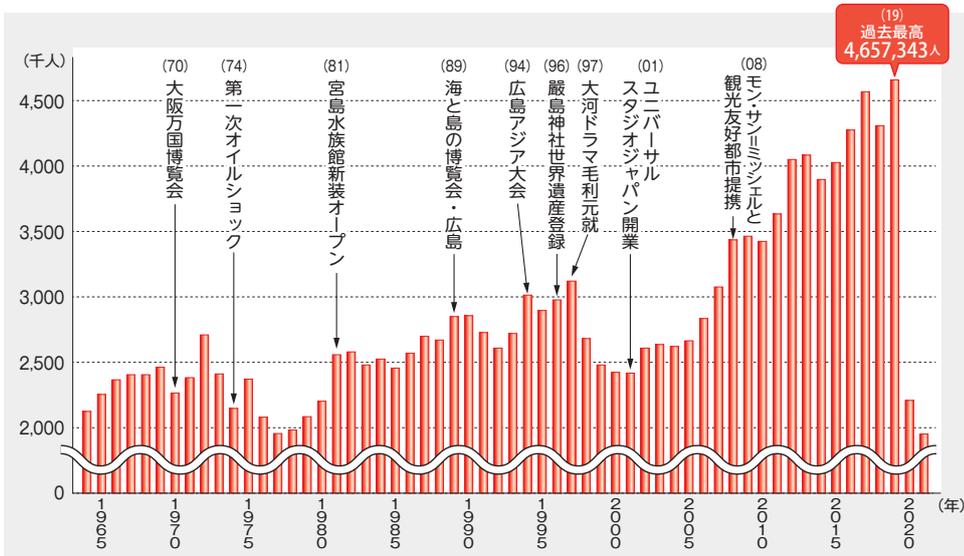
コロナ禍前の 宮島を訪れる観光客の状況の整理

(1) 宮島の来島者数の経年変化

コロナ禍前(2019年以前)の宮島来島者数を見ると、広島アジア大会の開催(1994年)やNHK大河ドラマ「毛利元就」の放映等の年(1997年)に300万人を超える数字を記録しているものの、2006年頃までは200万人台を推移していました。しかし、2007年に300万人を超えて以降急増し、2010年代には400万人、2019年には過去最高の465万7千人の来島者数になりました。

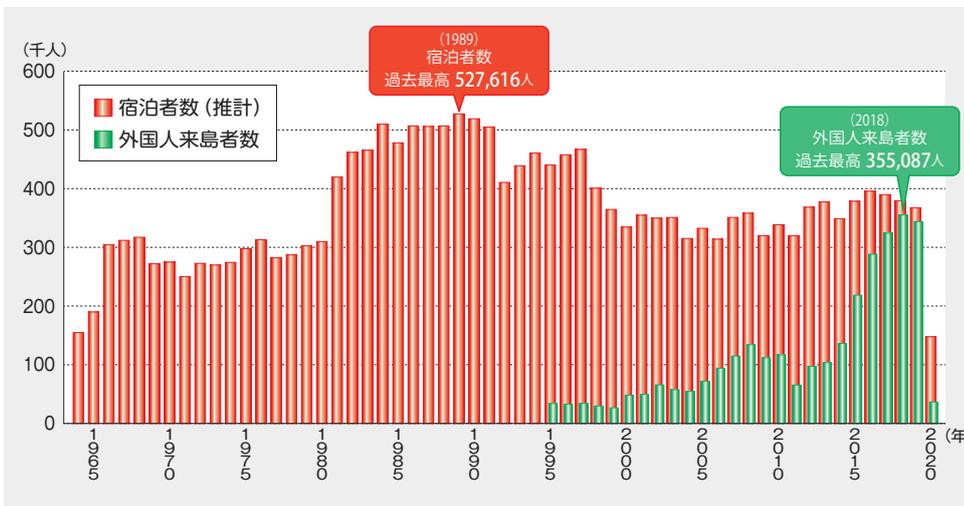
宿泊者数は1980年代に50万人台を記録していましたが、2000年代以降は30万人台で推移しています。また、外国人来島者数は2015年以降急増し、2018年に35万5千人を記録しています。

宮島来島者数の推移 (1964年～2021年)



(出典) 廿日市市資料

宮島宿泊者数・外国人来島者数の推移 (1964年～2020年)



(出典) 廿日市市資料

(2) 繁忙期と閑散期の比較

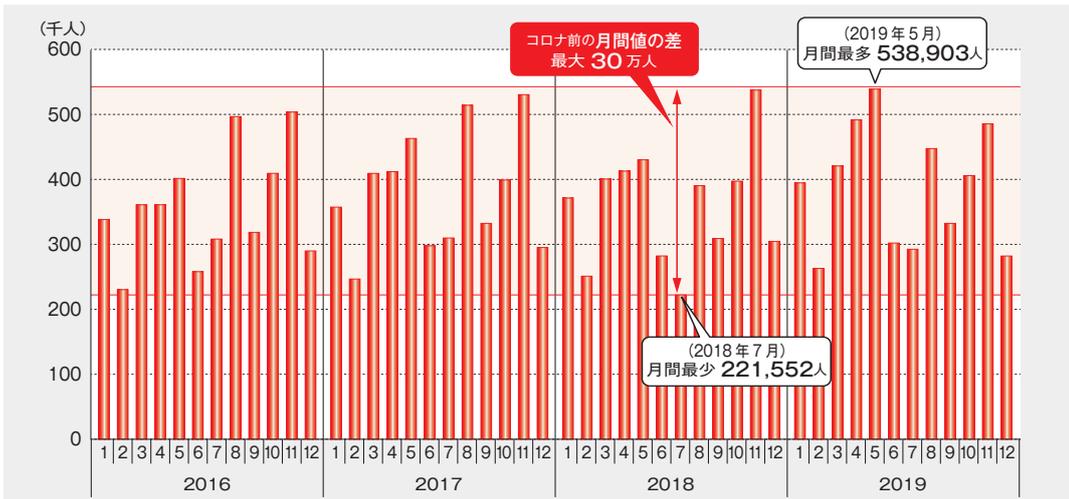
コロナ禍直前4年間(2016~2019年)の宮島来島者数について月別に見ると、例年5月、8月、11月が多く50万人前後、2月、6月、7月、12月が少なく20万人台となる傾向にあり、月間値の最大差は約30万人となっています。

また、1日ごとの来島者数を見ると、年末年始、5月連休(ゴールデンウィーク)、8月のお盆休みや花火大会等の特定日に来島者が集中しており1日5万人を超える日もあります。特定日を除いた月別平均値を見ると11月が最も多く、年間の休日・平日の差は1日平均約6500人程度となっています。

1

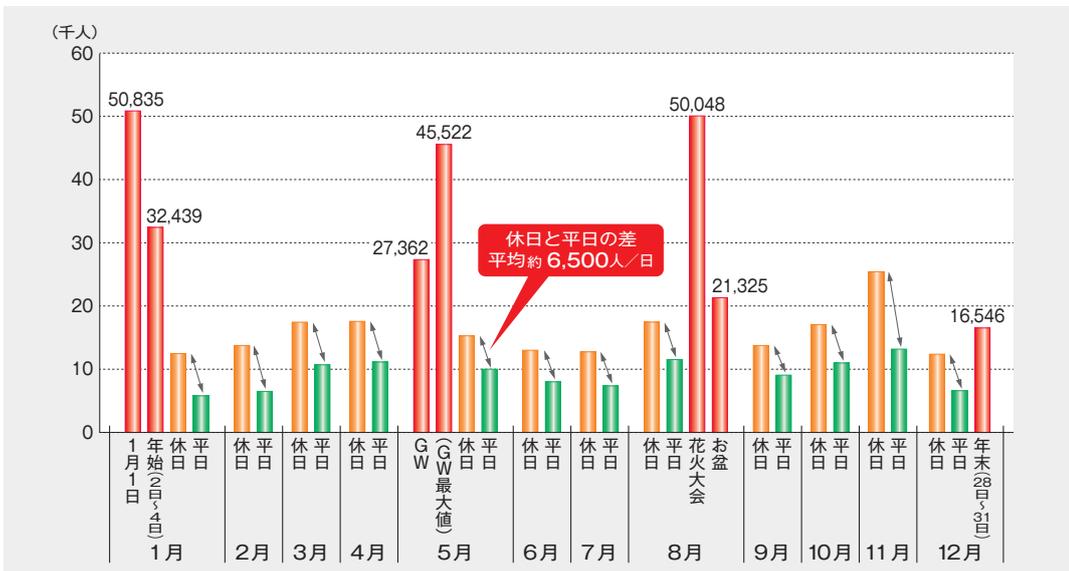
コロナ禍前の宮島を訪れる観光客の状況の整理

宮島来島者 月別推移 (2016年~2019年)



(出典) 廿日市市資料

宮島1日あたり来島者 特定日平均値、特定日を除く月別休日・平日別平均値 (2016年~2019年)



(出典) 廿日市市資料

宮島1日あたり来島者 特定日別平均値（2016年～2019年）

	2016	2017	2018	2019	平均 (2016-2019)	備考
1月1日	51,290	50,692	52,081	49,276	50,835	
年始(1/2-4)	30,238	31,473	33,043	35,003	32,439	
GW	25,256	24,664	24,284	35,245	27,362	2019年は10連休
(GW最大値)	42,827	44,303	44,209	50,750	45,522	
花火大会	57,981 (8/11開催)	47,373 (8/26開催)	中止	44,790 (8/24開催)	50,048	2018年は西日本豪雨災害の影響により中止
お盆	23,499	26,637	21,069	14,094	21,325	
年末(12/28-31)	15,688	15,809	16,518	18,169	16,546	

(出典) 廿日市市資料

特定日を除く宮島1日あたり来島者 月別、休日・平日別平均値（2016年～2019年）

		2016	2017	2018	2019	平均 (2016-2019)	平日・休日差
1月	休日	11,385	11,063	13,229	14,612	12,572	6,720
	平日	5,222	6,510	5,619	6,059	5,852	
2月	休日	11,854	14,551	14,062	14,759	13,807	7,284
	平日	6,164	6,499	6,561	6,868	6,523	
3月	休日	16,588	19,354	17,370	16,781	17,523	6,790
	平日	9,639	10,678	10,807	11,809	10,733	
4月	休日	16,071	18,266	17,757	18,369	17,616	6,456
	平日	9,423	11,428	10,982	12,808	11,160	
5月	休日	13,686	15,919	15,027	16,850	15,370	5,348
	平日	8,842	10,155	10,014	11,076	10,022	
6月	休日	12,286	13,750	13,108	13,124	13,067	5,030
	平日	7,253	8,534	7,823	8,538	8,037	
7月	休日	14,395	14,108	8,914	13,603	12,755	5,372
	平日	7,487	7,754	6,305	7,984	7,383	
8月	休日	15,582	19,277	16,258	18,706	17,456	5,910
	平日	13,100	12,583	9,836	10,666	11,546	
9月	休日	13,735	14,060	12,945	14,343	13,771	4,681
	平日	9,043	9,573	8,559	9,184	9,090	
10月	休日	17,656	16,239	17,490	17,164	17,137	6,128
	平日	10,739	11,248	10,888	11,162	11,009	
11月	休日	23,704	25,643	28,335	23,930	25,403	12,199
	平日	13,351	13,709	13,456	12,301	13,204	
12月	休日	12,309	12,427	12,877	11,898	12,378	5,745
	平日	6,449	6,957	6,797	6,329	6,633	
平均値							6,472

(出典) 廿日市市資料

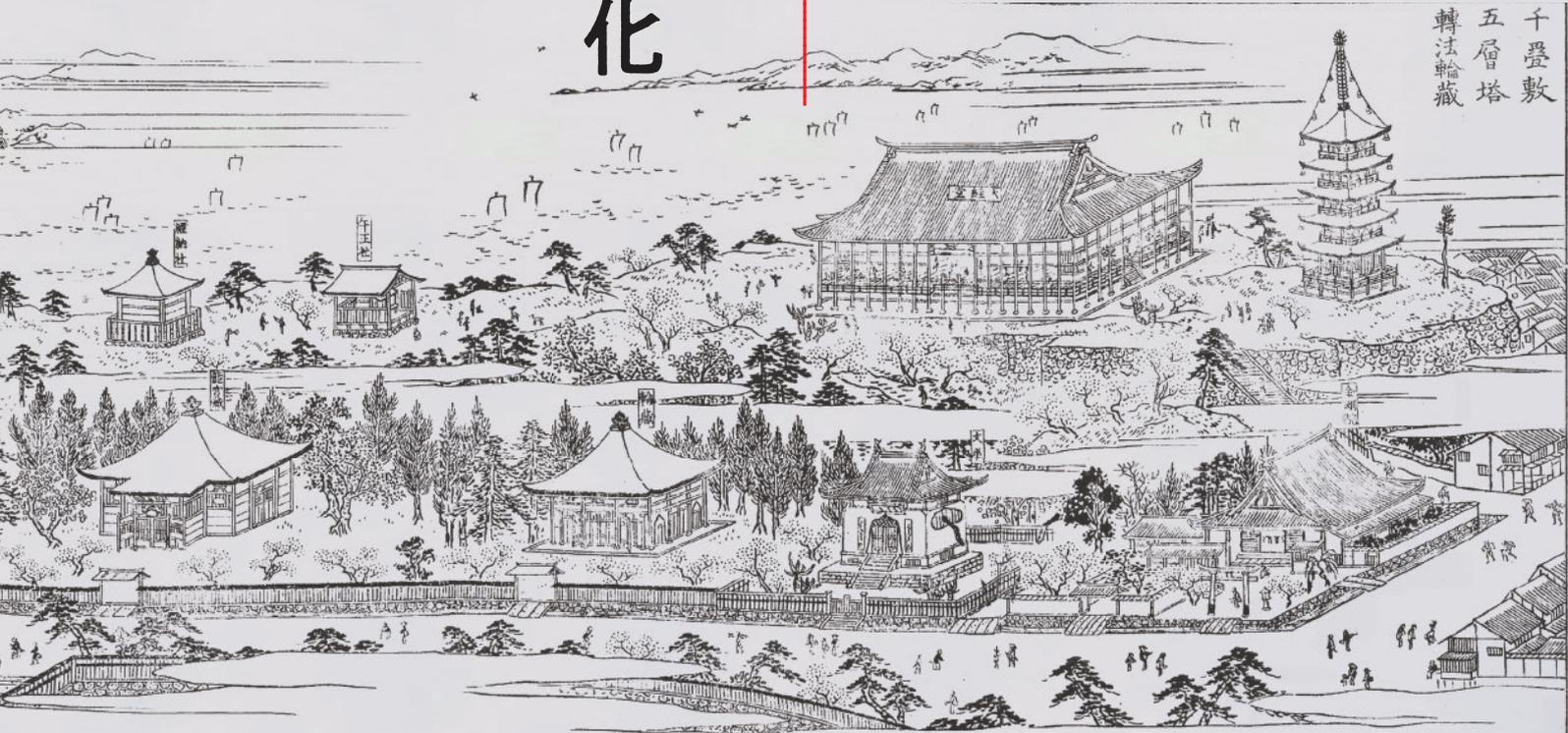
1

コロナ禍前の宮島を訪れる観光客の状況の整理

2

コロナ禍における 観光意識・ニーズの変化

- (1) 新型コロナウイルスに関する動き……………12
- (2) 宮島来島者数の推移……………13
- (3) 国際観光客数の推移見込み……………13
- (4) 国内観光客の旅行意識・ニーズの変化……………14
- (5) 世界各国の旅行意識・ニーズの変化……………15
- (6) 国の方向性・今後の施策アイデア……………16
- (7) コロナ後の観光振興のキーワード整理……………17

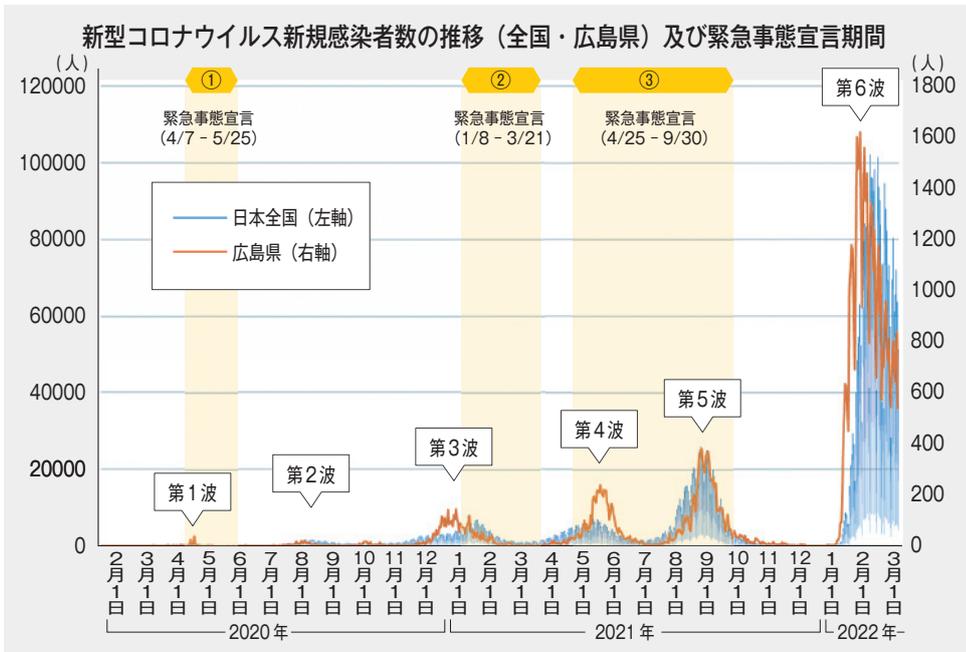


コロナ禍における観光意識・ニーズの変化

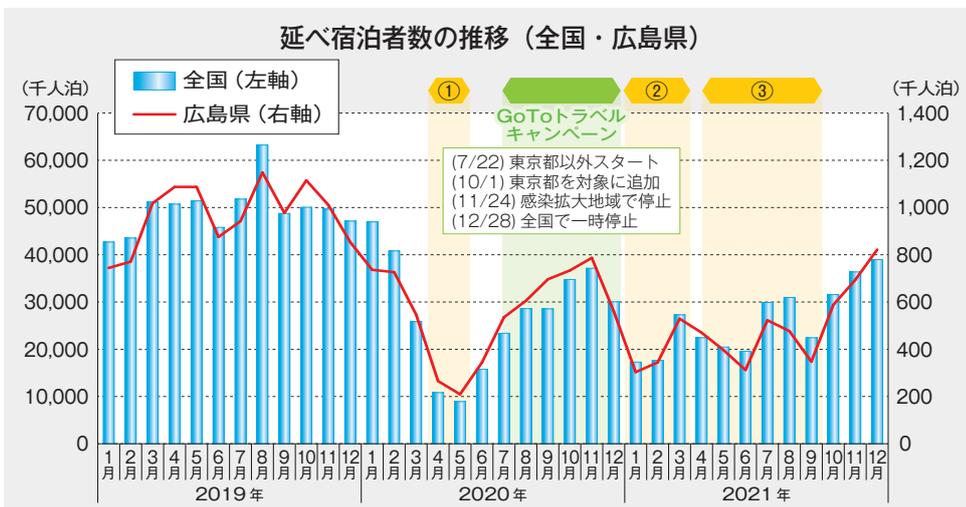
(1) 新型コロナウイルスに関する動き

新型コロナウイルスが日本の観光動向に影響し始めたのは2020年1月下旬からであり、3月の全国の学校の臨時休校、4～5月の全国規模での緊急事態宣言により都道府県をまたぐ人の移動が制限され、その影響が拡大してきました。

第1回緊急事態宣言解除後、Go Toトラベルキャンペーンも始まり、延べ宿泊者数は増加傾向にありましたが、11月から感染者数が再拡大し、2021年は長期に渡って緊急事態が宣言され、延べ宿泊者数も伸び悩みました。



(出典) 厚生労働省オープンデータ、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策
 ※緊急事態宣言の期間は国内での最初の宣言から緊急事態終了までを示しており、その期間中に宣言区域が複数回変更されている。



(出典) 宿泊旅行統計（観光庁）、観光庁 WEB サイト

(2) 宮島来島者数の推移

宮島を発着する各船会社から提供された乗船者数を集計した「宮島来島者数」の月別推移を見ると、全国や広島県の延べ宿泊者数の推移と同様に、5月を底として11月にかけて回復傾向がみられ、第3波の影響で12月は再び減少幅が大きくなっています。

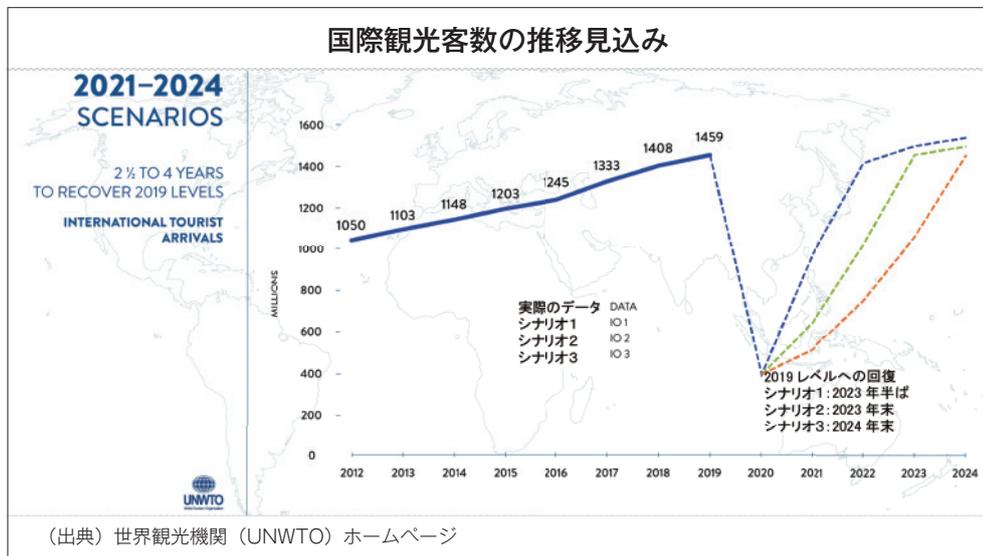
令和2年の年間値は、前年比52.6%減となり、全国や広島県の延べ宿泊者数よりも大きい減少幅となっています。



(出典) 廿日市市資料

(3) 国際観光客数の推移見込み

UNWTO(国連世界観光機関)では、2021年以降の国際観光客数について3つのシナリオを設定しています。2019年レベルに回復するまで早期回復シナリオでも2年半、回復が遅くなるシナリオでは4年かかると想定しています。



(出典) 世界観光機関 (UNWTO) ホームページ

(4) 国内観光客の旅行意識・ニーズの変化

観光客視点でのアンケート調査によると、ウィズコロナ時代の国内宿泊旅行の移動手段として「自家用車で移動する旅行」は時期に関わらず50%以上が希望しています。また、国内宿泊旅行の目的として「温泉や露天風呂」、「地元の美味しいものを食べる」、「宿でのんびり過ごす」等が上位になっており、コロナ禍以前から人気の高かった温泉、グルメに加えて、「のんびり」過ごすニーズが増えていると思われます。

さらに、宿泊施設について求めることを見てみると、最も高いのは「従業員がマスク・消毒を徹底して行っている」、次いで「部屋の備品（TVのチャンネルや充電器など）」までチェックイン前に、消毒がされている、「個室での食事」が上位であり、新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みが必須であることがうかがえます。（「新型コロナウイルス感染症の旅行市場への影響調査」じやらんリサーチセンター、P273）

株式会社JTBによる観光客視点のアンケート調査（下記参照）によると、外出自粛や渡航制限の解除でやりたいこととしては、「国内旅行」、「外食」、「友人知人に会う」が

上位3つとなっています。（「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査（2020）」JT B、JT B 総合研究所、2020.5.28）

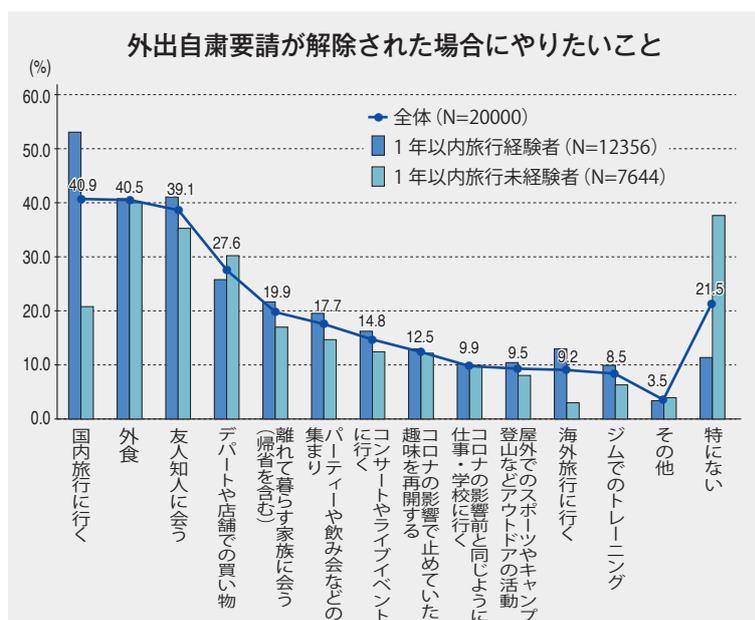
都市部住民へのインターネットアンケート

参考資料

新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査（2020）（JT B、JT B 総合研究所）

株式会社JT Bおよび株式会社JT B総合研究所は、共同で「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査（2020）」を実施しており、令和2年5月に結果を公開しています。レポートでは、2月の感染拡大から緊急事態宣言の発令、解除の見通しが立つまでの間の人々の意識や行動の変化、旅行意向を追いながら、今後の足元の旅行回復の動きと、未来の旅行・観光のあり方への影響について旅行者側から探っています。

その調査の中で、「外出自粛要請が解除された場合にやりたいこと」を聞いたところ、「国内旅行に行く」が最も多くなっており、特に1年以内に旅行を経験した人の国内旅行ニーズが高まっていると想定されます。



（出典）新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査（2020）（JT B、JT B 総合研究所）を基に作成

では、ウィズコロナ時代における旅行として半数以上が農山漁村地域への旅行意欲があると回答しています。（株式会社百戦錬磨調査 2020.7.10）

(5) 世界各国の旅行意識・ニーズの変化

株式会社日本政策投資銀行（DBJ）等によるアジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者を対象とした調査（以下参照、以降「DBJ・JTBF海外調査」という）によると、海外観光旅行の検討を再開するタイミングとしては、「抗ウイルス薬の開発など、新型コロナウイルスの脅威が消滅してから」、「渡航希望先の安全宣言後」、「自国の出国制限措置の解除後」という回答が多く、訪日外国人旅行者数が従前通りに戻るには相応の時間を要することが指摘されています。

また、新型コロナウイルス終息後に観光旅行したい国・地域として、日本はアジアではトップ、欧米豪でも2位の人気であり、新型コロナウイルス感染拡大前から変わらず日本人気は高いことが分かります。一方で、新型コロナウイルス終息後の訪日旅行全般に期待したいこととしては「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」がアジア・欧米豪ともにトップであり、特にアジアからのウイルス対策全般に対する期待は高いものと言えます。さらに、新型コロナウイルスは旅行者の旅行形態や同行者に関する意向にも変化を与えており、希望する旅行形態として、所謂3密が想起さ

れやすいフルパッケージツアー（航空券と宿泊施設がセットになったパック旅行に食事・観光・添乗員や現地ガイドが含まれているもの）は新型コロナウイルス拡大前よりも人気が落ちる一方で、ダイナミックパッケージ（航空券と

宿泊施設のみがセットになったパック旅行）の人気が高まっています。

参考資料

アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（DBJ・JTBF）

株式会社日本政策投資銀行（DBJ）は、世界的に感染拡大が見られる新型コロナウイルス感染症が外国人旅行者の海外旅行意向に与えた影響を調査すべく、公益財団法人日本交通公社（JTBF）と共同で、アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者6,266人を対象としたインターネットによる緊急アンケート調査を令和2年6月に実施しています。

その調査結果で、新型コロナウイルスの流行終息後に訪日したい場所として、アジア居住者は過半数が「日本」を、欧米豪居住者では2位に「日本」が入っています。

新型コロナウイルスの流行終息後に、観光旅行したい国・地域

アジア居住者 (n=3,822)		欧米豪居住者 (n=1,840)	
日本	56%	アメリカ	28%
韓国	30%	日本	24%
台湾	23%	カナダ	20%
タイ	19%	イギリス	19%
シンガポール	17%	オーストラリア	17%
オーストラリア	16%	フランス	17%
ニュージーランド	15%	イタリア	16%
中国本土	14%	ドイツ	14%
スイス	12%	ニュージーランド	14%
香港	11%	その他欧州諸国	13%
マレーシア	11%	タイ	12%

(出典) アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査 (DBJ・JTBF)

(6) 国の方向性・今後の施策アイデア

2020年7月23日にオンライン開催した「日本インバウンドサミット2020（株式会社MATCHA主催）」において、株式会社星野リゾート代表の星野佳路氏は「遠方や海外をイメージすることが多い「旅」を、コロナ期の旅行ニーズに合わせた新たな旅のあり方として、地元を目を向けて楽しむ「マイクローリズム」を推進する」旨の発言をされており、コロナ禍において様々なメディアで同様に「マイクローリズム」について言及しています。また、同イベントにおいてWAmazing 株式会社代表取締役社長の加藤史子氏は『インバウンドの回復は不透明だが、地元の人が地域の良さを知る良い機会』と発言する等、コロナ禍の観光振興の方向性として、地域住民が地域を知る良い機会と捉え、まずは近距離の旅行から回復させていくことが求められています。

政府においても、2020年6月、7月に開催された観光戦略実行推進会議においてコロナ禍における観光振興の方向性が検討されており、その資料によると「我が国の観光は、特定の時期に休暇取得することや、宿泊日数が短いこと等による観光消費額の伸び悩み

みがある。新型コロナウイルス感染症による社会変化を受け、今こそ休暇分散に取り組み機会。」として、コロナ禍を日本の観光の課題を改善していく機会と捉えた方向性が示されています。特に、以下に示すように、ワー

ケーションや滞在型旅行等の「新しい旅行スタイル」を推奨し、そのためのコンテンツ整備や受入環境整備を進めることが示されています。

参考資料

休暇の分散化と新しい旅行スタイルの普及（観光庁）

2020年7月27日に開催された観光戦略実行推進会議（第38回）の観光庁資料（下図）によると、旅行消費の増加に向けた取り組みとして、世界レベルの宿泊施設の誘致やコンテンツの造成・磨き上げ等地域の観光の質の向上を進める方針を打ち出すとともに、休暇の分散、ワーケーションの推進に向けた方針が検討されています。

ワーケーションは「テレワークを活用し、リゾート地・温泉地等で余暇を楽しみつつ仕事をを行う」もので、休暇の分散化を進めるための新しい旅行スタイルの1つとして提案されており、その他、プレジャー、サテライトオフィス、滞在型旅行が提示されています。

休暇の分散化と新しい旅行スタイルの普及



- Go to トラベルキャンペーンの広報の中で、感染リスクの低減に資する休暇の分散化、ワーケーションなどの新しい旅行スタイルの普及を図る。
- 同時に、観光地や宿泊施設において、「新しい旅行スタイル」を実施するためのコンテンツ整備、受入環境整備を進める。

目的

休暇の分散化

→ 企業への働きかけと国民への呼びかけ・周知が必要

POSITIVE OFF



手段

休暇の分散化を進めるため新しい旅行スタイルを普及

→ ワケーション、プレジャー及びサテライトオフィス需要に対応した環境整備、滞在型旅行実現のためのコンテンツ整備

- | | |
|-------------|---|
| * ワケーション | … テレワークを活用し、リゾート地・温泉地等で余暇を楽しみつつ仕事をを行う。 |
| * プレジャー | … 出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむ。 |
| * サテライトオフィス | … 企業または団体の本拠地から離れた所に設置されたオフィス。 |
| * 滞在型旅行 | … 平日を含む一定期間、好きなどころに滞在して、地域の自然、食事、文化を体験し、学び、楽しむ。 |



9

（出典）第38回観光戦略実行推進会議（2020年7月27日開催）資料1：観光庁資料

(7) コロナ後の観光振興のキーワード整理

コロナ禍における各種調査結果等を基に、コロナ後の観光振興のキーワードを整理すると、以下のようにコロナ禍でのデジタル化の急速な進展に端を発し、様々な観光行動の変化が予測されています。結果として観光のあり方も大きく変容することが想定されており、このような変化への対応が必要です。

コロナ禍での急速な変化

① 観光のデジタル化

- ・混雑の見える化、非接触が必要という状況の中でデジタル化が急速に進展
- ・プロモーション、顧客管理
- ・現地情報提供、決済、交通、宿泊、物販、飲食など、観光のあらゆる側面でのデジタル化
- ・観光DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点が不可欠
- ・メタバース（仮想空間）を活用したプロモーション展開等、新たな技術・手法を用いた観光振興への対応

観光行動の変化（予測）

② 個人化・個別化

- ・個人旅行、個室飲食、個別移動等のニーズの高まり、多様な個人ニーズの顕在化
- ・従来型の観光（団体旅行）からのシフトが必要

③ 情報通信の活用高度化

- ・旅行に行けない、旅行に来てもらえない状況の中でオンラインコンテンツが進化
- ・5Gの進展に伴い、世界中が超高速・超低遅延で繋がることになり、個人がリアルタイムで世界と繋がる

④ 観光需要の平準化

- ・コロナ禍においてリモートワークの進展、ワーケーションへの期待の高まり
- ・混雑回避のため閑散期・平日需要の増加
- ・脱オーバーツーリズム
- ・コロナ後も地方・平日・長期滞在ニーズが定着

観光のあり方の変化（想定）

⑤ 人的資源・連携重視

- ・個別の「つながり」による観光行動誘発の活発化
- ・インバウンド対応可能な外国人材の活用（外国人材の雇用促進）
- ・事業者や地域との繋がりをソーシャルキャピタル重視

⑥ シビックプライド

- ・観光客も地域への愛着が増し、関係人口化することで誰でも情報発信側へ
- ・地元産品ニーズを踏まえた地産地消の推進、地域内経済循環の創出
- ・コミュニティリズムや地域教育の重要性の拡大

⑦ サステナブルリズム

- ・SDGsの観点に即した地域の持続的な発展のための観光環境負荷の少ない観光、リジェネティブ・トランゼル（再生型の観光）重視
- ・観光客も環境保護への責任を持つレスポンスブルリズムの進展

3

宮島ルネサンス計画の 全体方針

- (1) 廿日市市観光振興基本計画の内容……………20
- (2) 基本方針……………21

其二
座主
大聖院

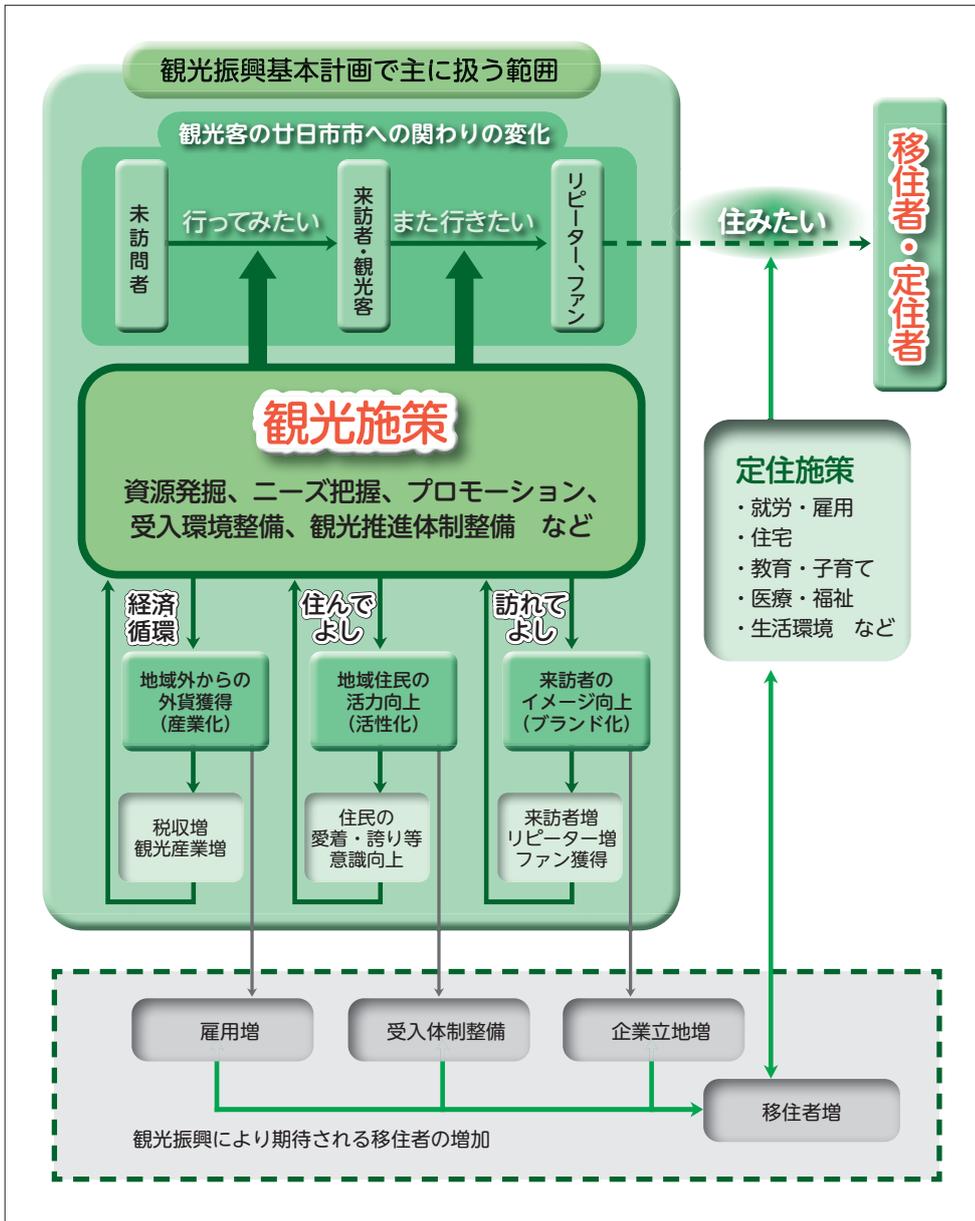


宮島ルネサンス計画の全体方針

(1) 廿日市市観光振興基本計画の内容

現行の観光振興基本計画（2015年度～2024年度）では、地域内の消費増加（地域外貨獲得）、地域住民の活力向上（住んでよし）、地域外からの来訪者のイメージ向上（訪れてよし）を図るものであり、「廿日市市を訪問した観光客から、リピーターやファンを獲得し、将来的に廿日市市への移住を検討・実践する人の増加を目指す」ことが明記されています。

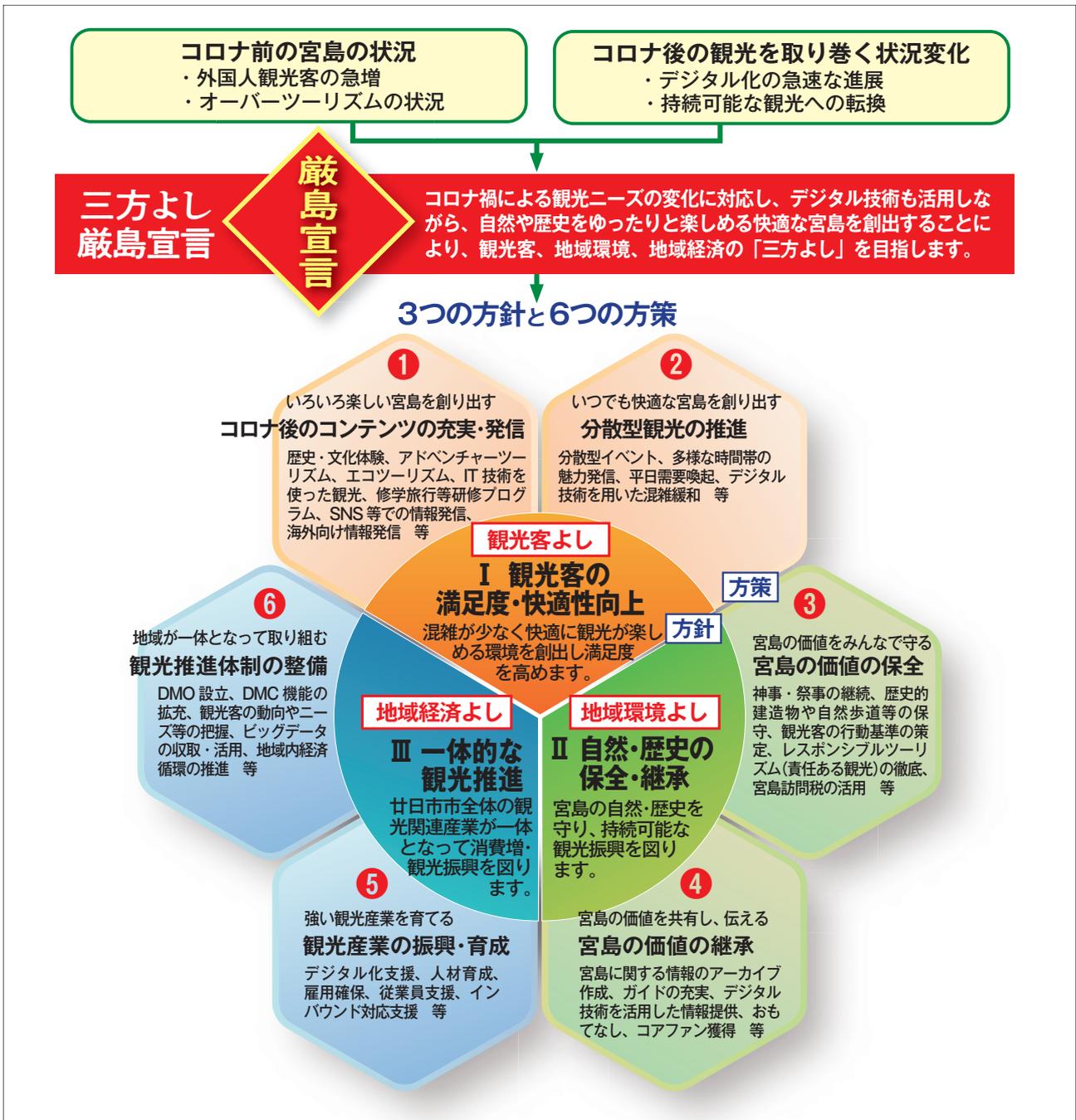
本計画は、基本計画に想定していない新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた宮島の「再生・復興」のため策定するものですが、現行の計画の基本方針を踏まえたものとなっています。



(2) 基本方針

コロナ禍直前には年間450万人を越える来島者を迎えていた宮島においては、観光客が集中する特定日などにオーバーツーリズム（観光客が多すぎて住民生活に影響が出る状態）が発生していました。

宮島ルネサンス計画の基本方針は、キャッチフレーズとして「三方よし 厳島宣言」を掲げ、混雑緩和、平日の観光客数増加等、宮島を快適に過ごせる取組を進めつつ、世界遺産の自然や歴史を保全・継承し、観光関連産業の振興を図る、観光客、地域環境、地域経済の「三方よし」を目指します。



4

宮島ルネサンス計画の 具体的方策

(方策1) コロナ後のコンテンツの充実・発信……………24

【具体的事業】

- ア. コロナ後のコンテンツ拡充事業
- イ. まなびの島宮島創出事業
- ウ. 「宮島復活」プロモーション事業
- エ. 上質なインバウンドサービス創出事業

(方策2) 分散型観光の推進……………29

【具体的事業】

- ア. デジタル技術等を用いた混雑緩和・快適性向上事業
- イ. 閑散期や朝・夜等の積極的な受入拡大事業

(方策3) 宮島の価値の保全……………32

【具体的事業】

- ア. 「みんなで守る宮島」推進事業
- イ. 持続可能な観光地域づくり事業

(方策4) 宮島の価値の継承……………35

【具体的事業】

- ア. 全島博物館実現化事業
- イ. エコツーリズム推進事業

(方策5) 観光産業の振興・育成……………38

【具体的事業】

- ア. 観光産業の生産性向上事業
- イ. 観光人材育成事業

(方策6) 観光推進体制の整備……………41

【具体的事業】

- ア. DMO設立事業
- イ. 観光産業における地域内経済循環促進事業

大願寺



4

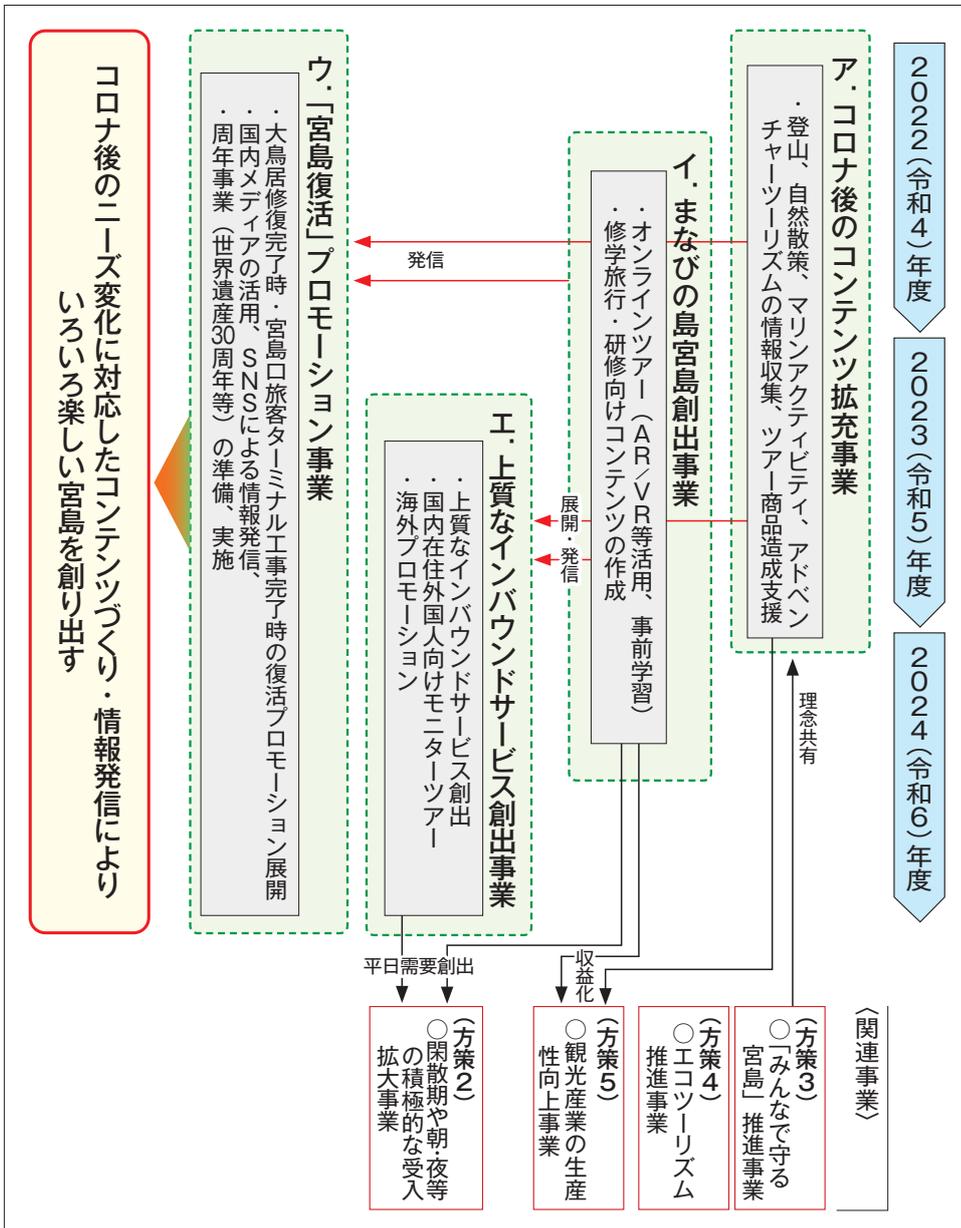
宮島ルネサンス計画の具体的方策

(方策1) コロナ後のコンテンツの充実・発信

コロナ後の宮島観光は、観光客数の増加という「量の拡大」を目指すのではなく、観光消費額の増大、観光客の満足度の向上という「質の向上」を目指します。そのために、コロナ禍を経て求められている「密」を回避するニーズに対応したコンテンツや、急速に進展しているIT技術を用いた新たな観光スタイル等のコンテンツの充実に図り、国内外に向けて発信することが必要です。

具体的なコロナ後のコンテンツとして、キャンプ、登山、シーカヤック等のアウトドアアクティビティやそれらを活用したアドベンチャーツアーリズム及び研修プログラム、IT技術を用いたオンラインツアー、VR/ARを活用したガイドサービスや体験コンテンツ等の開発を進め、地域雇用につながる「稼げる」コンテンツとしての強化を図ります。

また、コロナ後の国内観光の復活や訪日外国人観光客の回復等が期待される中、厳島神社大鳥居の修復工事完了までは国内プロモーションに注力しつつ、インバウンド対応を並行



【具体的事業】

ア・コロナ後のコンテンツ拡充事業

①安全・安心な観光地づくり

コロナ禍において安全で安心な旅のスタイルが求められており、観光庁においても「安全で安心な旅のスタイル普及事業」として感染拡大防止策の強化、ポストコロナ期にも必要な安全・安心に繋がる施設整備等が展開されることから、安全・安心な旅行地づくりに向けた事業を継続して実施します。

コロナ後は不特定多数の観光客が一緒に行動する旅行形態を避ける傾向になると想定され、団体旅行から個人旅行への転換が更に進むものと思われまます。FIT(Free Independent Traveler/Tourist：個人観光客)をターゲットとしたガイドサービスや体験プログラム等に取り組んでいる事業者の情報を収集・整理するとともに、コンテンツの充実を図ります。

②アドベンチャーツーリズムの推進

旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする「アドベンチャーツーリズム」

という旅行形態(参考事例参照)が注目されています。登山やシーカヤック等、山、海を使ったアクティビティが可能な宮島において、高単価・長期滞在コンテンツの拡充を図ります。

③IT技術を用いた新たな観光体験創出

コロナ禍において非接触ニーズ等を背景に急速に進化したデジタル化に対応し、オンラインツアーやAR/VRを使った体験事業、ガイドサービス等、IT技術を用いた新たな観光体験創出を進めます。

参考資料

地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業(2021年度：中国運輸局)

国土交通省中国運輸局では、「令和3年度地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズム(AT)のモデルツアー造成等事業」として、広島市湯来地区を中心として廿日市市、江田島市を巡る「水と平和の源流を巡るモデルツアー造成事業」を実施した。2021年10月に実施した外国人モニターツアーは、湯来地区から江田島、宮島、広島市内を巡る1週間の行程で実施され、江田島からシーカヤックで宮島へ渡り、弥山に登る等、宮島の自然を体感するツアーとなっている。

アドベンチャーツーリズムは、「アドベンチャー」という言葉から、強度の高いアクティビティを主目的とする連想されがちであるが、近年はハードなものより、むしろ散策や文化体験等のソフトで簡易なものが主流となってきた。AT旅行者の特徴として、教育水準の高い富裕層の割合が高く、平均で14日間と長期の滞在を好み、アウトドアギア(用具、装備)にもこだわる層が多いことから、経済波及効果が高く、北米・欧州・南米の主要地域ではそれぞれの国内市場を除く海外での消費額のみで推計6830億ドル(76.5兆円)の経済効果があるとされている。また旅行者の旅行目的の地選定にあたっては、その地域の魅力そのものはもちろん、旅行者がATを通じて、地域の自然・社会環境のサステイナビリティ、地域住民の雇用・所得向上に貢献できるかといった視点が重視されるなど、従来の旅行とは違った観点で構築された質の高い旅行プログラムが求められる。

今後、1週間のプログラムの他、3泊4日のプログラムを造成・販売を予定しており、宮島におけるアドベンチャーツーリズムの提供も期待されている。

(出典)一般社団法人アドベンチャーツーリズム協議会WEBサイト、地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズム検討資料「NPO法人湯来観光地づくり公社作成」

イ.まなびの島宮島創出事業

①探求型学習フィールドを活用した修学旅行誘致

コロナ後の宮島における消費拡大、滞在延長を促すため、修学旅行や研修等の「まなび」に着目したコンテンツの創出を図ります。

小・中学校、高等学校の修学旅行は「自ら学び自ら考える力」を育てる探究型学習の取り組みが重視されており、総合的な学習の時間と修学旅行を組み合わせた「深い学び」の実現が学校側から求められています。宮島歴史民俗資料館の資料等を活用し、宮島の歴史や自然に関するオンラインでの事前学習の実施（コンテンツ作り、体制整備）、海岸清掃や登山道整備など地域の環境保全に役立つ体験のプログラム化、「平清盛」「毛利元就」「宮島の地質」「宮島町家の形成」「スナメリの生態」「社寺の歴史」等、宮島で学ぶことができる複数のテーマについて自ら学ぶツール（モバイル端末等を用いた学習支援ツール等）の開発等により、探求型学習を行うことができる観光地を創出します。

修学旅行誘致に際しては、既に取組を進めている廿日市教育旅行受入推進協議会

（廿遊会）を中心に展開し、SDGsやオンライン学習等コロナ後の修学旅行誘致に必要な視点や取組について事業者向けの研修を実施する等、事業者の意識啓発にも取り組みます。また、広島市の平和記念資料館と合わせて宮島を訪れる修学旅行が多いことから、広島市と連携した誘致を進めます。

②人材育成研修・企業研修の誘致

コロナ禍では企業の働き方にも変化があり、リモートワーク（出勤せず自宅等で仕事を行う形態）やワーケーション（仕事（ワーク）と余暇（バケーション）を合わせた造語であり余暇滞在先で仕事を行う形態）といった言葉も聞かれるようになりました。また、IT企業を中心に地方への企業移転の動きが見られたり、大学生の地域課題研修ニーズが高まっているとも言われています。宮島及び宮島口エリアの宿泊施設において、平日の宿泊利用促進に向けて、リモートワークやワーケーション対応プランを展開するとともに、2〜5日間程度の人材育成研修プログラムを開発し、企業や大学の人材研修フィールドとしての宮島エリアの活用を図ります。

参考資料

人材育成研修プログラム実施イメージ

国内の企業への打診、宮島研修を行う企業グループの形成

人材育成研修「厳島五日研修」の実施

■実施概要

- ・企業の中堅人材育成（30代）、10名程度/回
- ・チームビルディング力、地域課題解決力を学ぶ5日間（月～金）
- ・宮島・宮島口エリアの宿泊施設に連泊
- ・1日2時間程度リモートワーク時間を提供しつつ、現地研修を実施
- ・メンター（スルーガイド）が全行程に同行

■プログラム例

- 〈1日目〉 月曜日：参加者同士の交流
・ 午後に宮島到着、オリエンテーション、共同調理
- 〈2日目〉 火曜日：地域課題把握
・ 座学＋宮島事業者ヒアリング
- 〈3日目〉 水曜日：共同学習
・ 座学＋厳島神社参拝・宮島歴史散策
- 〈4日目〉 木曜日：チームでの達成感の共有
・ 弥山登山又はシーカヤックによる無人島上陸
- 〈5日目〉 金曜日：目標達成度の確認
・ クローキング、個別学習内容の発表

企業側の効果：中堅人材の育成、地域課題解決型ビジネスの発案、異業種ネットワーク形成

宮島エリアの効果：平日宿泊需要創出、地域課題への関心増、宮島サポーター人材の獲得

ウ.「宮島復活」プロモーション事業

①ルネサンス(再興)プロモーションの展開

コロナ収束後は、Go Toトラベル事業等、国を挙げて観光需要創出の取り組みが進められることが想定され、国の動きに合わせた誘客促進策を展開します。また、その後の宮島の観光再興への転換点として、厳島神社大鳥居の保存修理工事終了時、また宮島口旅客ターミナル周辺の整備完了時を設定し、宮島の「再興期」としてリニューアルに関する情報発信を戦略的に進めます。

具体的なプロモーション事業としては、国内メディアの招聘やタイアップ番組制作支援、首都圏や関西圏等でのプロモーション活動やイベント、SNS広告等を活用したデジタルマーケティング、旅行会社や交通事業者と連携した旅行商品造成等、ターゲット毎に複数チャネルを用いた多様な展開を行います。

②口コミマーケティングの実施

SNS活用については、友人・知人の口コミを得る、タグにより気になる写真や動画を得る等、旅行者の情報収集ツールとして急速に利用が増加しており、旅行者自身がSNSに投稿するところを推奨するところ

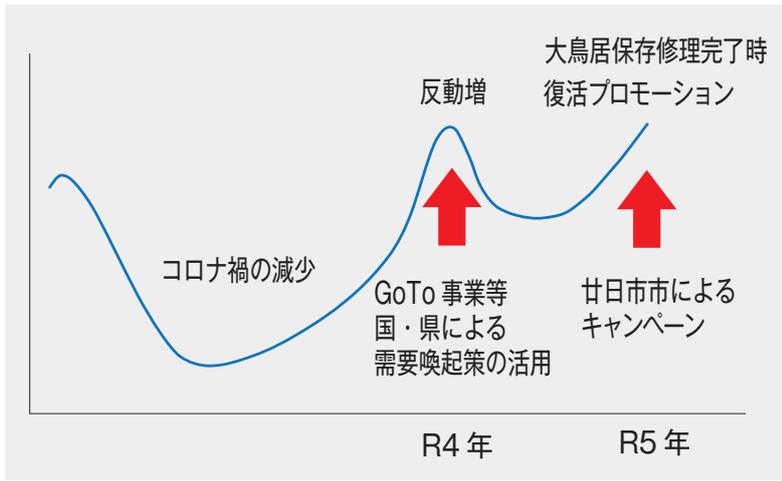
もに、SNSマーケティングの専門家による効果的な情報発信や、廿日市市周辺に在

住する地元住民によるSNSへの投稿を促す施策を展開します。

参考資料

プロモーション展開イメージ

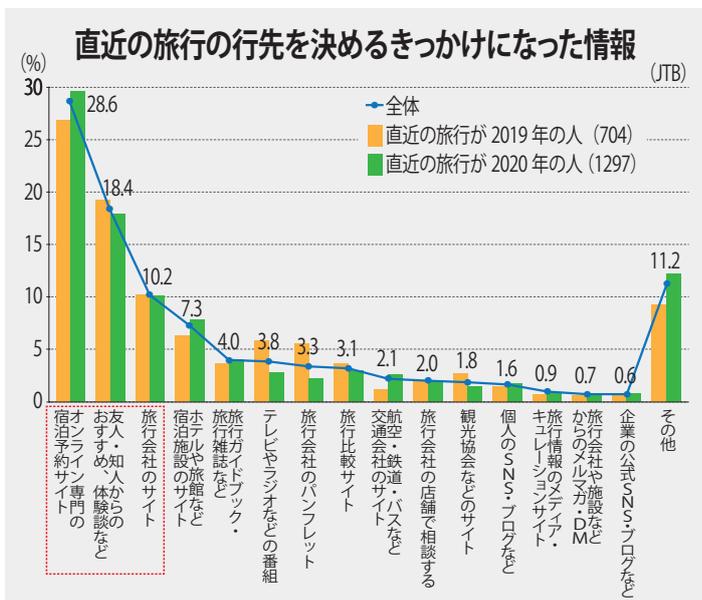
コロナ禍収束後、国や県による需要喚起策により反動増が予想され、宮島にも多くの観光客が戻って来ると考えられます。本市としてのプロモーションは国・県による需要喚起策終了後、大鳥居保存修理工事終了時に注力します。



参考資料

旅行における情報収集手段の変化

株式会社JTBは、2021年3月に「コロナ禍の生活におけるインターネットやSNSからの「情報」に対する意識と旅行」に関する意識調査を実施しており、その調査において、直近の旅行の行先を決めるきっかけになった情報について聞いたところ、全体では「オンライン専門の宿泊予約サイト(OTA)(28.6%)」、「友人知人からのおすすめ・体験談など(18.4%)」、「旅行会社のウェブサイト(10.2%)」が多い結果でした。



(出典) 株式会社JTBニュースリリース (2021/04/09)

エ. 上質なインバウンドサービス創出事業

① 上質なインバウンドサービスの提供

コロナ禍で大きく落ち込んだインバウンド市場ですが、令和5年度以降にはインバウンドの回復が見込まれており、回復前からインバウンド対応を進めます。

インバウンドの主たるターゲットとしては欧州・北米・豪州（欧米豪）を設定し、宮島エリアでの宿泊増、滞在時間増に向けて、自然アクティビティを中心に英語対応可能なコンテンツを造成します。特に、瀬戸内海クルーズ乗船客や訪日富裕旅行者（観光庁では訪日旅行で着地100万円以上消費する旅行者と整理）等、上質なサービスを求める富裕層の来島者が増加することが見込まれ、既存の富裕層向けサービスを提供している事業者と連携し、上質な宿泊施設の開発等、富裕層向けコンテンツの整備・拡充を図ります。

また、観光案内所の外国人対応設備（窓口対応用多言語翻訳ツール、案内マップ、WEBサイト等）を整備し、ICTを活用した案内標識の整備、キャッシュレス決済対応、免税対応、無料Wi-Fi環境の整備、観光案内所の整備改良等、観光地での周遊・観光消費の増加を促す仕組みの構築を図ります。

② インバウンド向けプロモーション展開

コロナ禍においては、主にアジア圏から広島空港への直行便は休止となりましたが、広島空港民営化後の積極的な直行便誘致により、コロナ前と比較して東アジア・東南アジアから広島への来訪が増加することが期待されることから台湾、香港、中国、韓国等の直行便就航地を中心にキャンペーンを実施します。また、タイやシンガポール等東南アジアから広島空港への直行便の復活が期待され、広島広域都市圏と連携したモデルコース作成や、冬季のスキー場への来訪を促すプロモーションを行い、誘客を図ります。

欧・米・豪等からの外国人観光客の周遊範囲は日本人に比べると広く、広域的な連携のもとプロモーションを行うことが重要であり、観光庁やJNTO（日本政府観光局）、広島県観光連盟、せとうちDMO等、広域的な組織との連携体制を構築し、事業を展開します。令和6年度にはモン・サン・ミッシェルとの観光友好都市提携15周年を迎えることから、周年事業の実施等にも取り組みます。

SNS等による海外への口コミ発信を期待し、国内在住外国人をターゲットとした誘客（国内在住外国人対象モニタツアーや各地の在住外国人コミュニティに向けた

情報提供等）を進め、安心・安全の取り組み状況や各地のコンテンツ情報について、SNS等により母国語での情報発信を促すとともに、宮島、廿日市市に興味ある外国人を対象として、リピーターとして何度も訪れて頂けるような情報発信を行います。

参考資料

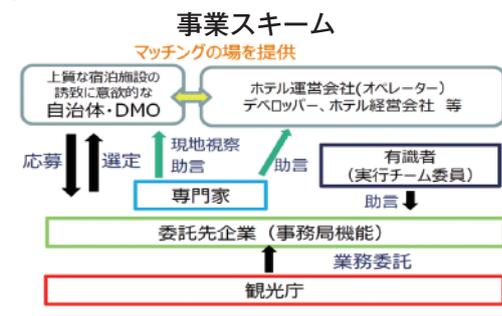
「上質な宿泊施設の開発促進事業」（観光庁）

観光庁では2030年に訪日外国人旅行者数6000万人、訪日外国人旅行消費額15兆円などの目標達成に向け、観光先進国の実現に取り組むことが必要と考えており、特に上質な観光サービスを求めこれに相応な対価を払う旅行者の訪日促進を重要な課題として位置づけています。

「上質な宿泊施設の開発促進事業」は、こうした旅行者の訪日や滞在の促進に向け、上質な宿泊施設の誘致に意欲的な自治体等の公募と、宿泊施設運営会社やデベロッパー等を引き合わせる場を提供するマッチング等をモデル事業として実施し、その後の普及と展開に繋げるものです。

令和3年度の公募において、廿日市市を含む全国で10の自治体が選定されており、今後、事業を進めていく予定となっています。

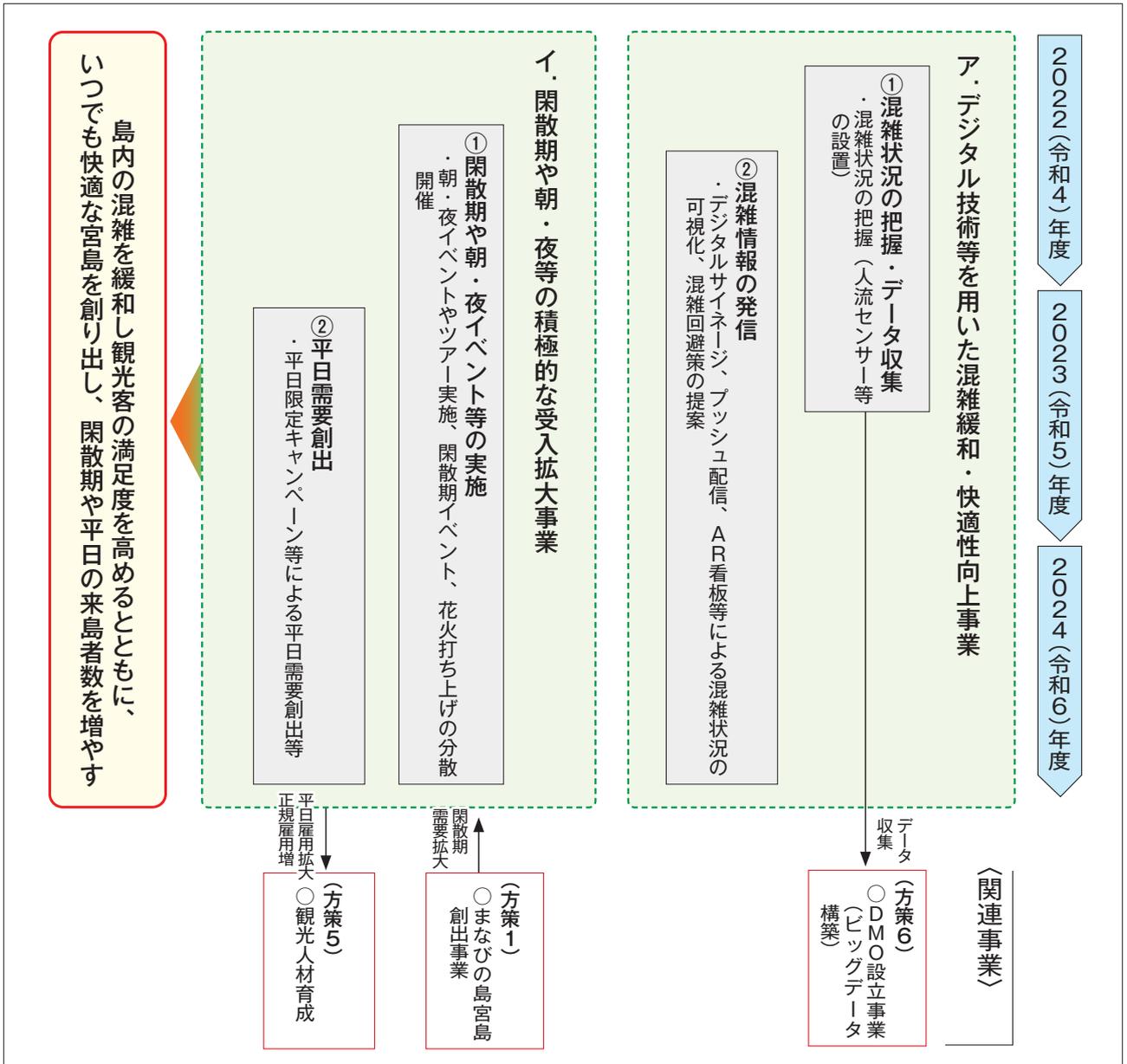
（出典）観光庁



(方策2)分散型観光の推進

コロナ前の2019年は過去最高の465万7千人の来島者数がありました。島内が混雑し、観光客の満足度の低下が見られる状況(オーバーツーリズム)でした。これまで、オーバーツーリズム対策として、宮島観光協会LINEアカウントによる混雑状況発信等を行ってきましたが、コロナ後においては観光客の混雑回避ニーズが更に高まっており、IT技術等を用いた混雑緩和に取り組みます。特に、スマートフォン等モバイルデバイスによるワンストップ・現地型の情報収集手法が広まることが想定されており、現地でのビーコン検知によるプッシュ配信や、デジタルマップ上のデータの充実、新たなモビリティサービスの導入等、リアルタイム情報の提供、移動手段の検討を行います。

また、国においても、ポストコロナ期の「新しい観光」ニーズに合わせ、日本の観光の課題として指摘されている休暇の分散化について施策が展開される中、本市においても閑散期や朝・夜等におけるイベント等の積極的な展開や、平日の観光誘客に取り組むことにより、来訪時期の平準化を図ります。



【具体的事業】

A. デジタル技術等を用いた混雑緩和・快適性向上事業

① 混雑状況の把握・データ収集

宮島観光協会が運営しているLINEアカウンティングでは、混雑解消に向けた情報を集約しており、特に国内観光客に向けて必要な情報を、旅行の前に把握できるような発信しています。今後も、コロナ禍における混雑回避ニーズに対応し、道路や駐車場、商店街等に人流センサーやカメラ等を設置し、デジタル技術を用いて宮島口・宮島域内の混雑状況を可視化する取組を進めます。

② 混雑情報の活用

収集した混雑情報について、デジタルサイネージやスマートフォンへのプッシュ配信、AR看板の設置等によりリアルタイムで混雑状況の可視化を行い、混雑回避策の提案を行うことにより混雑回避に繋がります。また、観光客の急拡大時には、警備や誘導人員の確保や案内板の整備等、観光客の安全確保の取り組みを行うことにより観光地としての信頼度を高めます。

混雑が予測される施設では、事前の日時指定電子チケットを発行する仕組みを導入する等、時間帯を区切って入場者数を

参考資料

宮島観光協会LINEアカウンティングによる混雑回避情報提供

「宮島ストレスフリー観光コンソーシアム」（代表企業・NTT西日本広島支店）では、広島県の「ひろしまサンドボックス」事業を活用し、2018～2020年度の3か年に渡り、観光客の方々にストレスなく快適に宮島観光を楽しんでいただくための取り組みを行いました。世界遺産である厳島神社を擁する宮島と宮島口の観光課題をAI/ROTで解決する取り組みとして、2019年4月より宮島観光協会LINEアカウンティングを開設しており、宮島内のトイレや、ライブカメラによる島内の混雑状況等の情報発信を行っています。



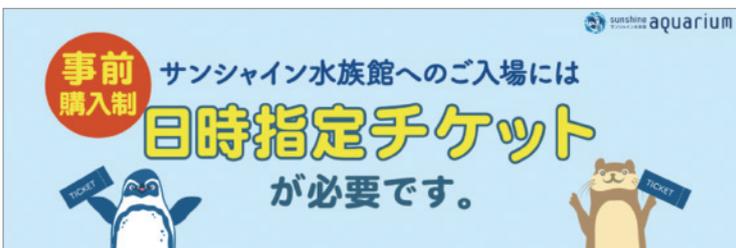
(出典) 宮島観光協会 Facebook ページ、広島県ホームページ

を制限することにより混雑を緩和し、事前チケット販売により来場者数の平準化を図ります。

参考資料

日時指定電子チケットによる混雑緩和の取り組み(サンシャイン水族館)

サンシャイン水族館では、感染対策の一環で、2020年6月から日時指定電子チケットを導入しています。15分毎の入場可能時間から選択することが可能で、当該時間帯が販売枚数に達すると販売終了となり、来場者数の平準化に繋がっています。



(出典) サンシャイン水族館 WEB サイト

イ. 閑散期や朝・夜等の積極的な受入拡大事業

① 閑散期や朝・夜イベント等の実施

宿泊者向けの朝散歩ツアーの共同開催や、夜の宮島散策ツアーの開発等、朝・夜の新たな魅力を創出し、1日の中で昼間に集中している観光需要の分散化を図ります。例えば、毎年8月に行われてきた宮島水中花火大会は長年の歴史に幕を閉じましたが、花火の打ち上げは夜のコンテンツとして集客が期待できるものであり、10分程度の短時間の花火を夏休み期間は毎週開催する等、宮島の夜を彩るコンテンツの1つとして花火の打ち上げを検討します。

② 平日需要創出

(方策1)で示した「まなびの島宮島創出事業」における修学旅行や研修の誘致やインバウンド誘客も平日需要拡大に資するものとして取り組むほか、学会やスポーツ大会、音楽等文化系団体の合宿、各種展示会等、MICE(マイス)誘致に向けても、資料作成や情報収集を進め、広島観光コンベンションビューロー等と連携し、etto宮島交流館(宮島まちづくり交流センター)等を会場としたMICE誘致等により新たな平日需要の創出を図ります。

コロナ禍において急速に進展したりリモートワークニーズに対応し、国も「ワーケーション」を施策として打ち出しています。Wi-Fi環境の整った滞在施設の整備及び飲

食やアクティビティ等付帯サービス提供の整備等、ワーケーションやリモートワークの適地として整備を進めます。

参考資料

宮島における「コロナ前の閑散期日数

「コロナ前の2016～2019年の4年間について、1日毎の来島者数を繁閑別に整理すると以下の表のようになります。

1日8000人未満を閑散日として設定すると、年間平均94日が閑散日となります。この閑散日を適度日まで底上げすることにより、島内需要の平準化が進み、一定の来島者数が見込め、観光事業者の体制についても正規職員を増やすことができる等の変化が期待できます。また、適度日の増加により観光客の満足度も向上し、年間を通じて消費額の増加も期待されます。

1日あたり来島者数の年別日数

	1日あたり来島者数	各年の該当日数(日)				2016-2019 平均値
		2016	2017	2018	2019	
最繁忙日	30000人以上	7	11	10	14	11
	20000～30000人	19	22	24	21	22
繁忙日	16000～20000人	30	40	31	42	36
	12000～16000人	82	72	70	78	76
適度日	8000～12000人	122	135	122	132	128
閑散日	8000人未満	106	85	108	78	94
	年間日数	366	365	365	365	365

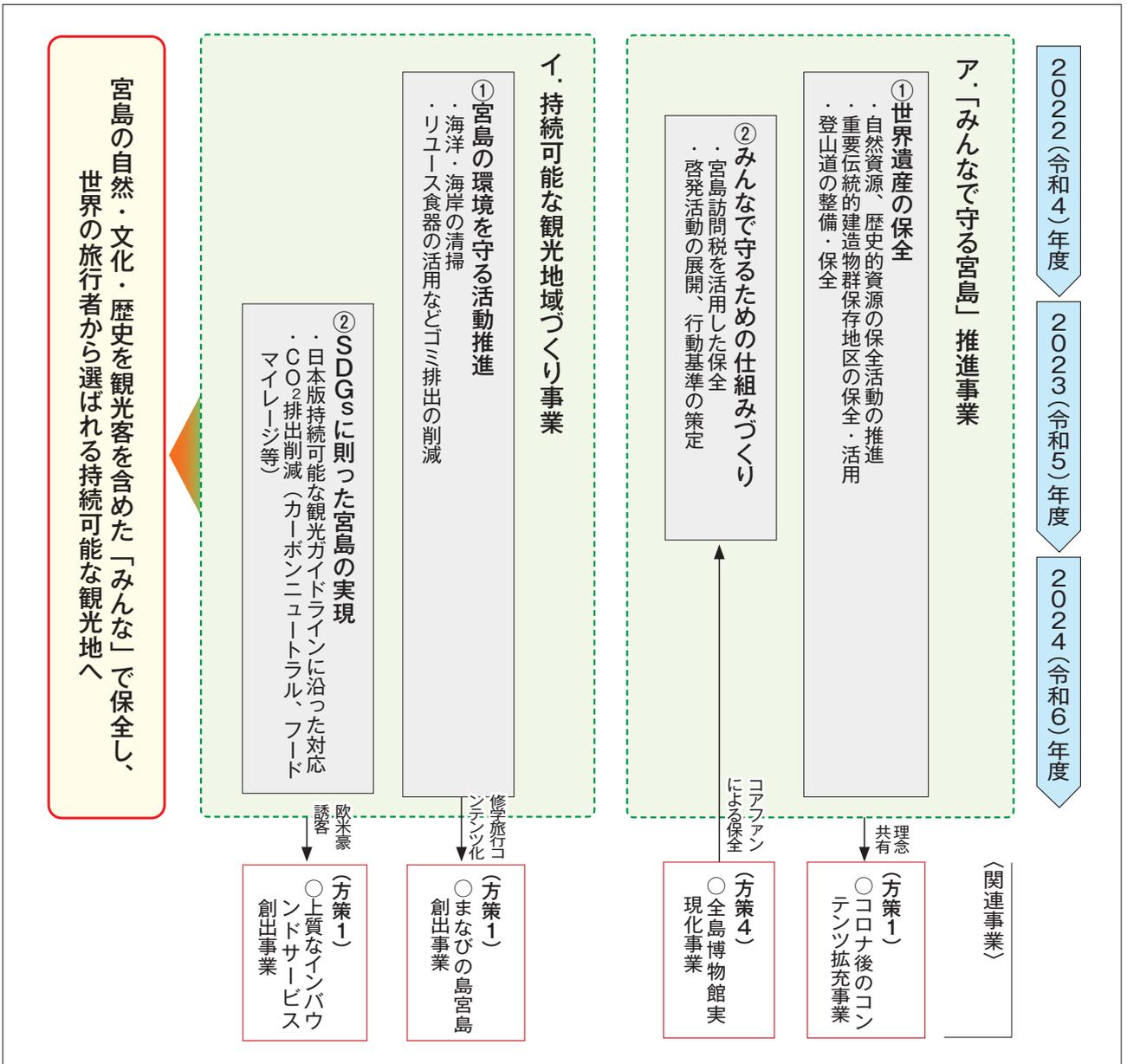
→閑散日を無くし、全て適度日へ

(出典) 廿日市市資料

(方策3)宮島の価値の保全

世界的に「持続可能な観光」への関心が高まる中、宮島エリアが世界の旅行者から選ばれる持続可能な観光地となるためには、宮島観光の中心となる歴史、文化、自然を保全していくことが重要である。

そのため「レスポンスブルーツーリズム（責任ある観光）」を理念として掲げ、観光客も宮島エリアの環境保全の役割を担うサポーターと位置づけ、世界遺産や歴史的建造物の保護、保全を進めます。



【具体的事業】

ア.「みんなで守る宮島」推進事業

①世界遺産の保全

これまでも長年にわたり多くの人の手によって守られて来た宮島の魅力や資源を、今後も継続して保全することは、今後の宮島が持続的な観光地となるために重要です。国宝や重要文化財だけでなく、神事・行事の継続、重要伝統的建造物群保存地区の保全・活用事業（対象区域のファサード修繕、観光客への情報提供、空き家の保全・活用）、自然歩道や登山道の保守、鳥獣害対策事業（イノシシによる登山道等の被害への対策）等、宮島の資源を守る取り組みを進めます。

②みんなで守るための仕組みづくり

歴史・文化・自然の保全活動については宮島訪問税も活用し、訪問税の利用目的・用途・成果の情報発信を行うことにより、多くの来島者の賛同を得ながら、宮島の持続的な観光地づくりを進めます。また、廿日市市在住者、広島市在住者等、宮島周辺の在住者を中心に組織される、宮島の資源の保全活動を担う各種ボランティア団体のメンバー等をコアファンと位置づけ、よ

り多くの人の協力を得ながら宮島の保全に取り組みます。

京都市で策定されている観光客の行動基準を参考に、宮島における観光客の行動基準を策定し、観光産業従事者や廿日市市民

参考資料

京都観光行動基準（京都観光モラル）

京都市及び公益社団法人京都市観光協会（DMO KYOTO）では、持続可能な観光をこれまで以上に進めていくために、「京都観光行動基準（京都観光モラル）」京都市観光協会が京都市観光協会、観光事業者・従事者等、観光客、市民の皆様とともに大切にしていただきたいこと」を2020年11月に策定しました。

観光事業者・従事者等、観光客、市民がお互いに尊重しあい、京都が京都であり続けるための「持続可能な観光」を、これまで以上に推進していくために、それぞれの主体に大切にしていただきたいこととして、また市民については、旅行者をあたたく迎えるなどの京都市市民憲章を具体的に実践するものとして、行動基準を策定しています。（下図は観光客向けチラシ）

(出典) 京都市観光協会資料

とのワークショップや観光客向けの情報発信等、レスポンスフルツールリズム（責任ある観光）の徹底により、観光客の行動も宮島の環境保全に役立つような取り組みを進めます。

や従事者、市民も含めて、お互いに大切にしたいことを定めて普及・啓発に取り組んでいます。なかでも、約1500社の会員事業者を抱える京都市観光協会では業界で働くみなさまを起点に取組を広げることが目指し、その手始めとして、業界からの有志と京都大学観光MBAの学生を招いたワークショップを開催しています。

イ・持続可能な観光地域づくり事業

① 宮島の環境を守る活動推進

宮島の観光資源である歴史・文化・自然等を継続的に保全し、観光地の持続可能性を高めることが求められています。特に、海洋・海岸の清掃やリサイクル・リユースの取り組み強化、プラスチックごみの減量等排出ゴミの少ない観光地モデルの実現等、自然環境を守る活動を進めます。

② SDGsに則った宮島の実現

2020年6月には、観光庁と国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所では『日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)』を発行しました。今後、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するためには、観光地の受入環境整備とあわせて、感染症対策や災害に備えた危機管理、地域の自然環境や文化遺産の保護等、観光客と地域住民の双方に配慮した観光地マネジメントを行うことが重要であるという観点から作成されるキーワードとして「持続可能な観光」が挙げられています。

地産地消の推進(フードマイレージを考慮した食材使用)やクリーンエネルギーの活用等によるCO₂排出削減等、SDGs

に即した観光地のあり方を訴求することにより、観光地の持続的な発展に繋がります。

参考資料

日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)

観光庁では、各地方公共団体や観光地域づくり法人(DMO)等が持続可能な観光地マネジメントを行うことができるよう、国際基準に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン(Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations: JSTS-D)」を2020(令和2)年6月に開発しました。

今後、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを実現するためには、観光客と地域住民双方に配慮し、多面的かつ客観的なデータ計測と中長期的な計画に基づく総合的な観光地マネジメントを行うことが重要という認識に基づき、このガイドラインを各地方自治体や観光地域づくり法人(DMO)等が活用することにより、地域での多面的な現状把握を可能にし、継続的なモニタリングと証拠資料(エビデンス)に基づいた観光政策や計画の策定、それらに基づく持続可能な観光地マネジメントの促進を目的としています。



日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D) ロゴマーク

■SDGsと観光

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)は、貧困や飢餓の撲滅、教育、ジェンダーの平等、クリーンエネルギーの普及、経済成長、環境保全、平和構築など、17の目標と各目標に紐づく169のターゲットからなり、2030年までの達成を目指している。

特に経済成長と雇用に関する「目標8」、消費と生産にする「目標12」、海洋資源に関する「目標14」の3つの目標には、観光の役割が明記されたターゲットが設定されているが、国連世界観光機関(UNWTO)は、「すべての目標に対して、観光は直接的、または間接的に貢献する力があり、持続可能な開発目標の達成に向けて、重要な役割を担っている」旨、宣言している。

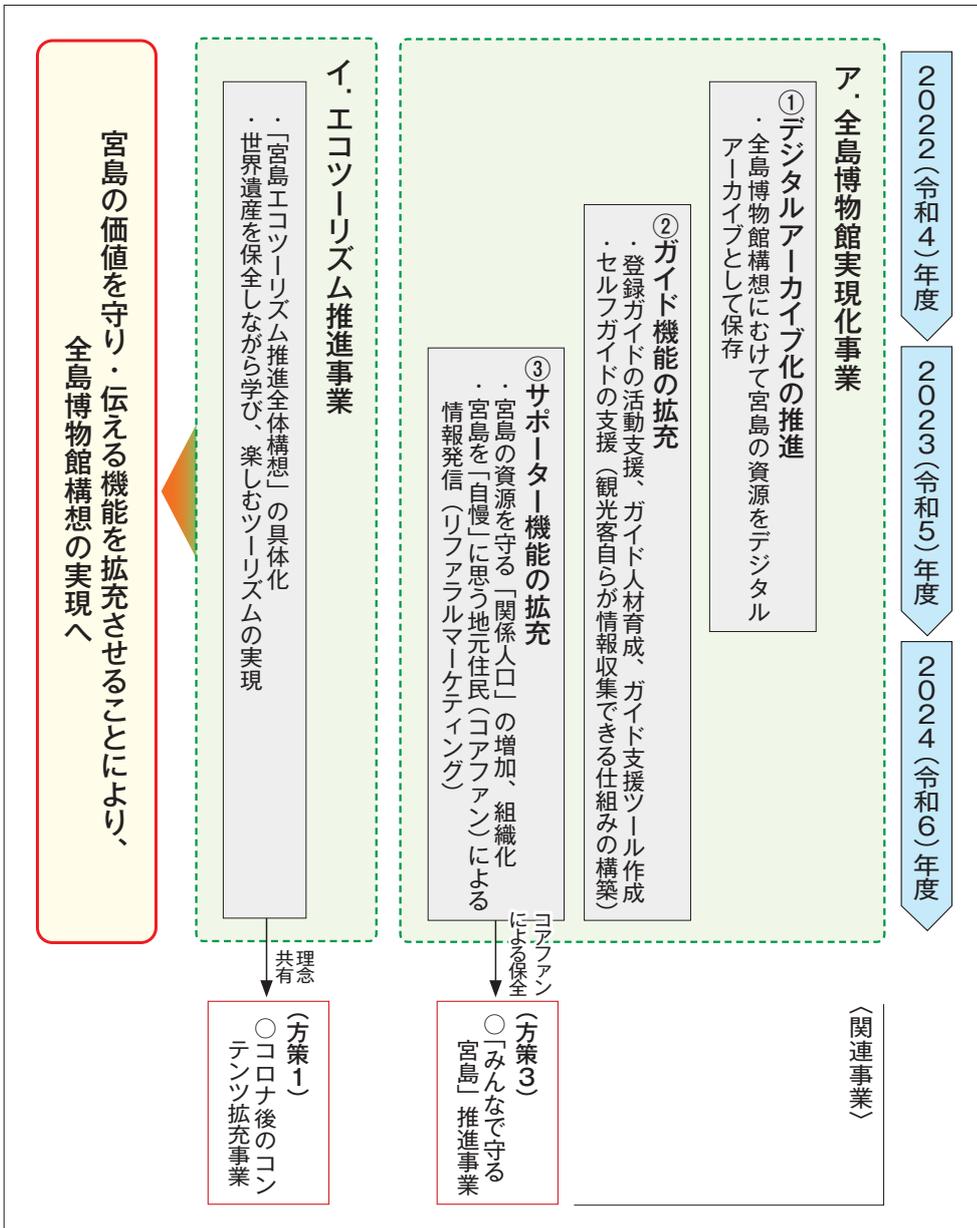
(出典) 観光庁資料

(方策4) 宮島の価値の継承

本市では2020(令和2)年3月に「宮島まちづくり基本構想」を策定し、急激な高齢化と人口減少が進行している宮島地域において、平安時代から受け継がれてきた文化や民俗に根ざした伝統を、世界共通の財産として次世代に引き継いでいくためのまちづくりの理念と基本方針を示しました。そこでは、貴重な自然、文化、歴史を守り伝える宮島全体をフィールドとして体験し、学びや観光ができる宮島を「本物を体感できる屋根のない博物館」と捉え、宮島の未来の姿を『全島博物館・厳島』としています。この全島博物館構想の実現に向け、コロナ後の宮島の観光の価値を継承していくために、宮島に関する情報のアーカイブ作成、学芸員としてのガイドの充実、会員としてのサポーター(リピーター)の組織化、IT技術を活用した情報提供等を進めます。

また、宮島エリアでは、魅力ある豊かな自然と歴史および文化などの地域資源の保全を図りつつ、観光関連産業をはじめとした各産業の持続と活性化を推進し、宮島のブランド力を高めながら、地域振興に資することを目的として、「宮島エコツーリズム推

進全体構想」を作成しており、エコツーリズム推進法に基づく認定を中国地方で初めて受けています。環境意識の高まりや自然活用型観光は、コロナ後において更にその傾向が強まると思われ、地域の自然環境の保全・活用等エコツーリズムの推進を加速させ、市域全体において環境負荷の少ない観光に取り組みます。



【具体的事業】

ア・全島博物館実現化事業

① デジタルアーカイブ化の推進

博物館や美術館等では、収蔵品等の資源をデジタル化する（デジタルアーカイブ）事例が増えています。宮島まちづくり基本構想で示された未来の姿「全島博物館・厳島」を実現していくため、宮島の自然、文化、歴史等の資源をデジタルアーカイブ化する仕組みを構築し、後世に残すとともに、世界に広く発信する等、データの活用を進めます。

② ガイド機能の拡充

博物館には「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる（博物館法第四条4）」学芸員が専門職として置かれています。宮島には学芸員の職能を果たすべく「宮島登録ガイド」が存在しており、「全島博物館・厳島」実現に向けて、登録ガイドの活動支援、ガイド人材育成、ガイド支援ツール作成等、ガイド支援を行います。また、セルフガイドの支援（観光客自らが情報収集できる仕組みの構築）等、ガイド機能の拡充を図ります。

③ サポーター機能の拡充

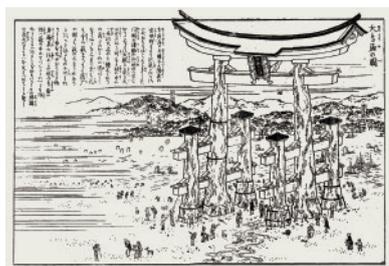
宮島まちづくり基本構想には「宮島の自然、文化、歴史などを守り伝えるためには、まずそこに暮らす人の力が必要です。しかし島に暮らす人だけでは、自然、文化、歴史を守り伝えていくことは難しくなっています。島に暮らす人、働く人、訪れる人、想いをはせる人、すべての島民が宮島を守り、伝え、発信することで新たな活力を生み出すことができます。」と記載があります。廿日市内を含む近隣圏の住民が廿日市市の魅力に気づき、宮島のリピーター、コアなファンを増やす施策を展開することは、SNS等への好意的な投稿の増加等、その後のプロモーション、移住促進に寄与する観光振興方策に繋がります。全島博物館の会員組織として、宮島のコアファンを組織化し、季節ごとのモニターツアーやイベント等の情報提供、クーポンの発行、資源保全のお手伝いの募集等を行います。

参考資料

『芸州厳島図会』の活用

江戸末期の地誌『芸州厳島図会』は1842（天保13）年に岡田清によりまとめられたものです。国立公文書館デジタルアーカイブにより公開されており、江戸末期の当時の様子や建築物、宝物等を知ることができます。

現代と江戸末期を見比べてみることで、風景の変化（あるいは変わらない風景）を知ることができ、宮島の自然や歴史を体感できる文献と言えます。



（出典）国立公文書館デジタルアーカイブ

参考資料

ARを用いたガイド支援

株式会社NTTドコモでは、Neal Ltd.が開発した、約79gのARグラス「Neal Air」（エンリアルエアール）について2022年3月4日（金曜）に、全国のドコモショップなどで発売することを発表しました。ARグラス内に生み出される仮想3次元空間上において、複数のコンテンツを同時に映し出す機能があり、「動画を見ながら友人とコミュニケーション」といったマルチタスクを効率的に楽しむことが可能となっています。



（出典）NTT ドコモ報道発表資料（2022年2月14日）

イ. エコツーリズム推進事業

自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたとしてエコツーリズムが提唱されており、2020年9月に「宮島エコツーリズム推進全体構想」がエコツーリズム推進法に基づき4大臣から認定(中国地方初)されました。自然保護活動の推進、自然に関する研修実施、自然歩道や登山道の整備、自然体験アクティビティの案内や受付対応が可能な案内所の整備等、「宮島エコツーリズム推進全体構想」の具現化を進めます。

参考資料

宮島エコツーリズム推進全体構想

宮島エコツーリズム推進協議会では、宮島の魅力ある豊かな自然と歴史および文化などの地域資源の保全を図りつつ、観光関連産業をはじめとした各産業の持続と活性化を推進し、宮島のブランド力を高めながら、地域振興に資することを目的として、「宮島エコツーリズム推進全体構想」を作成しています。

構想では、宮島全域及び周囲の海域を対象地域とし、以下に示す「守る」「活かす」「つなぐ」の3つの基本方針のもと、地域振興に資することを目的として、対象となる自然観光資源、エコツーリズム実施の方法、協議会の参加主体等が記載されています。

宮島エコツーリズム推進全体構想 3つの基本方針

- 守る…世界遺産を擁する宮島の自然を理解し、守り、未来へ継承します。
- 活かす…美しい宮島の自然の恵みを活かし、持続的に発展させます。
- つなぐ…美しい宮島の自然を通して、本土側を含めた地域住民と訪れる人との交流の場を提供します。



エコツアーの様子(上から、海浜生物観察、弥山登山ツアー、船上参拝ツアー)

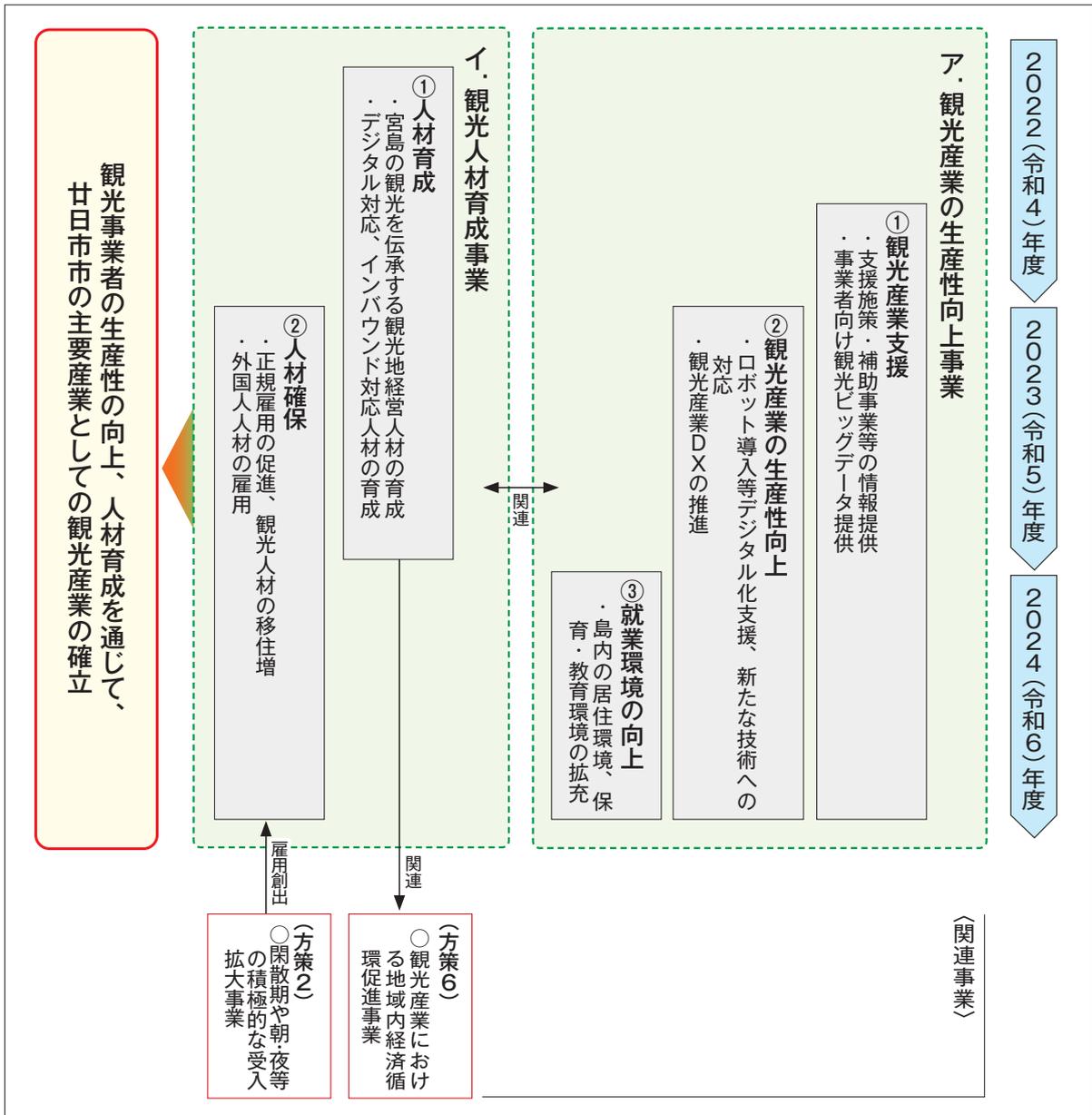


(出典) 宮島エコツーリズム推進全体構想
(宮島エコツーリズム推進協議会、令和2年9月)

(方策5) 観光産業の振興・育成

ポストコロナ期においては、5G等の次世代通信サービスが幅広く提供され、それらを使った新たなサービスの創出が期待されるとともに、観光産業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション・デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革）が進展すると想定されることから、観光協会等を通じた市内観光事業者のデジタル技術活用支援を進め、IoT/AI時代の新しい観光ニーズに合った観光産業振興・育成の取組を進めます。

また、宮島の神事・行事を継承し、宮島の歴史・文化を語ることができる人材、データに基づく経営や新たな潮流を踏まえたビジネス化等を行う地域の観光産業をリードする人材、インバウンド、観光DX化等に対応できる人材等、宮島の今後の観光産業を担う人材の育成・確保、就業環境の整備も合わせて行います。



【具体的事業】

A. 観光産業の生産性向上事業

① 観光産業支援

国や県等が実施する観光産業の支援策・補助事業等の情報や、観光客の動向等のデータについて、積極的に観光事業者に情報提供し、観光産業の経営や生産性向上に向けた研修の実施等により、観光事業者がより良い形で事業を展開できるような支援します。

② 観光産業の生産性向上

5G等の次世代通信サービスが幅広く提供され、センサーやロボット等、観光事業者において活用可能な新たな技術が具現化する中、観光産業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション・デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革）の推進等、IoT/AI時代の新しい観光ニーズに合った観光産業振興の取組を進めます。

③ 就業環境の向上

空き家を活用した島内の居住環境の整備、保育・教育環境の拡充等、就業環境の向上にも注力し、宮島の観光産業の雇用確保に繋げます。

参考資料

伊勢ろびや大食堂におけるDXの取り組み

伊勢市で商店や和食堂などの商業施設を営む、創業100年の老舗「ろびや大食堂」では、積極的に現場を巻き込んでIT事業に取り組み、課題をひとつずつ解決してきました。2012年のシステム導入以降、2018年にはろびや大食堂の売上が約4.4倍、客単価が約3倍、食品ロスが1/7に削減となり、データドリブンの店舗経営で得られた成果は、従業員にも還元（給料UP、残業0、長期休暇の取得等）されています。

この実験に裏打ちされたノウハウを元に、2018年に飲食店向けクラウドサービスの開発・販売・サポートを行う株式会社EBILABを立ち上げ、飲食・小売店舗経営に必要なすべての情報を一元管理できるシステム「TOUCH POINT BI」を開発しています。

「TOUCH POINT BI」では、売上、客数、顧客属性、マーケティングエリアやウェブの口コミなど、店舗に関する様々な状況の可視化が可能であり、店舗経営の指針となるデータ（気象情報、観光情報、人流データ、顔認証データ等）と「TOUCH POINT BI」で得られたPOSデータを掛け合わせ、未来の来客数を予測し、売れる商品の見極めや日々の事務作業の軽減する「来客予測AI」も開発し、これらのシステムを飲食店向けに展開しています。



(出典) 株式会社 EBILAB、広島経済同友会ひろしまブランド委員会資料

イ. 観光人材育成事業

① 人材育成

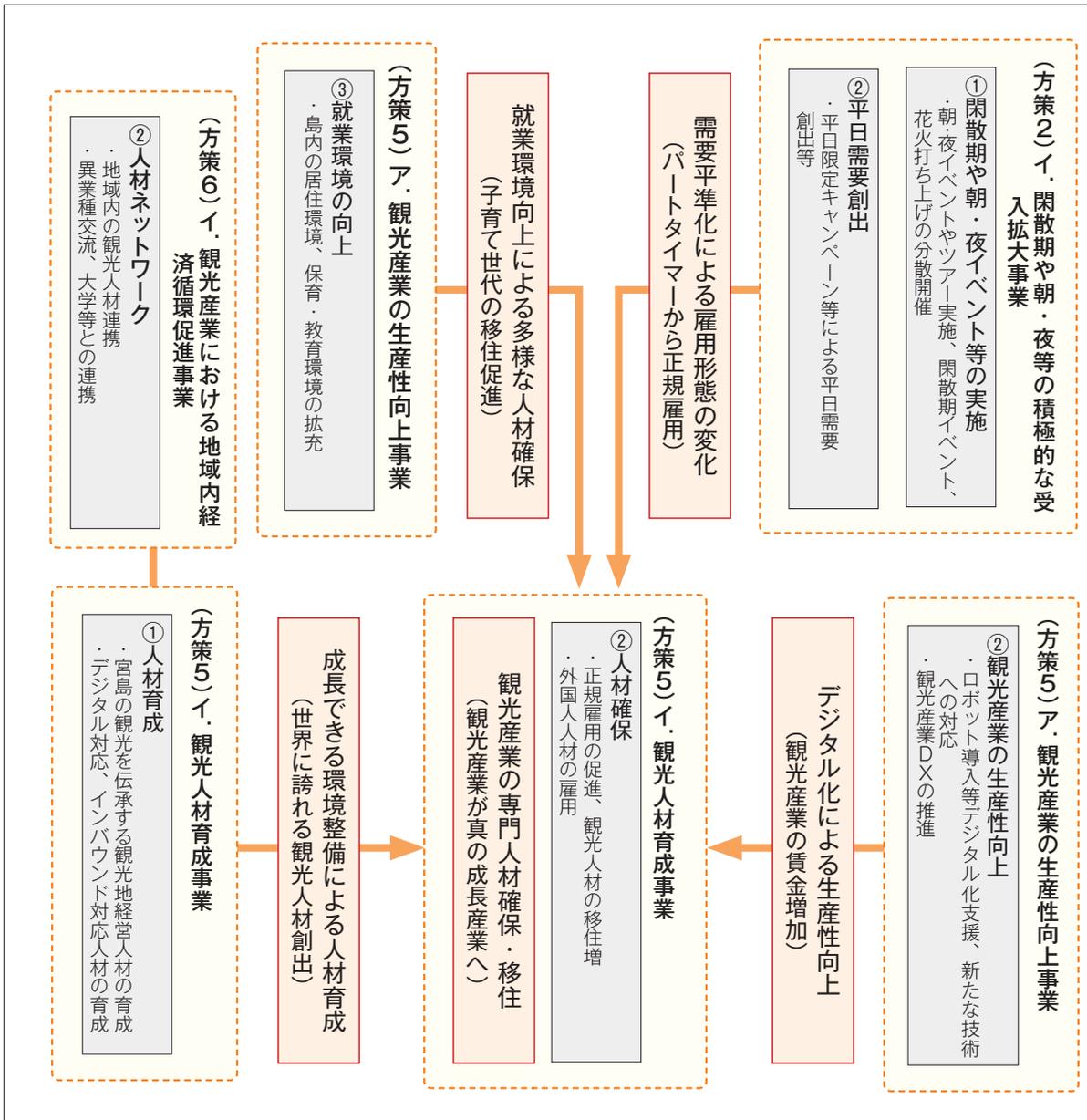
島内の観光事業者の従業員が、宮島のことを良く知り、神事・行事に参加したり、観光客に対して情報提供したりすること、宮島の観光産業が持続的に成長するためには、宮島の観光産業が持続的に成長するための好循環を生み出すために必要なことと考えられます。このような宮島の観光を伝承する人材をはじめとして、マーケティングやブランディングに係るノウハウの観光地経営の視点を持った人材、デジタル対応人材、インバウンド対応人材、木工細工等の伝統技術の継承人材等、宮島の観光産業に必要な人材を育成する事業に取り組みます。

② 人材確保

コロナ後は人材の定着も課題になると考えられ、来島者数の平準化により正規雇用の増加を促すとともに、外国人人材の雇用促進、観光人材の移住促進に向けた取り組みを展開します。

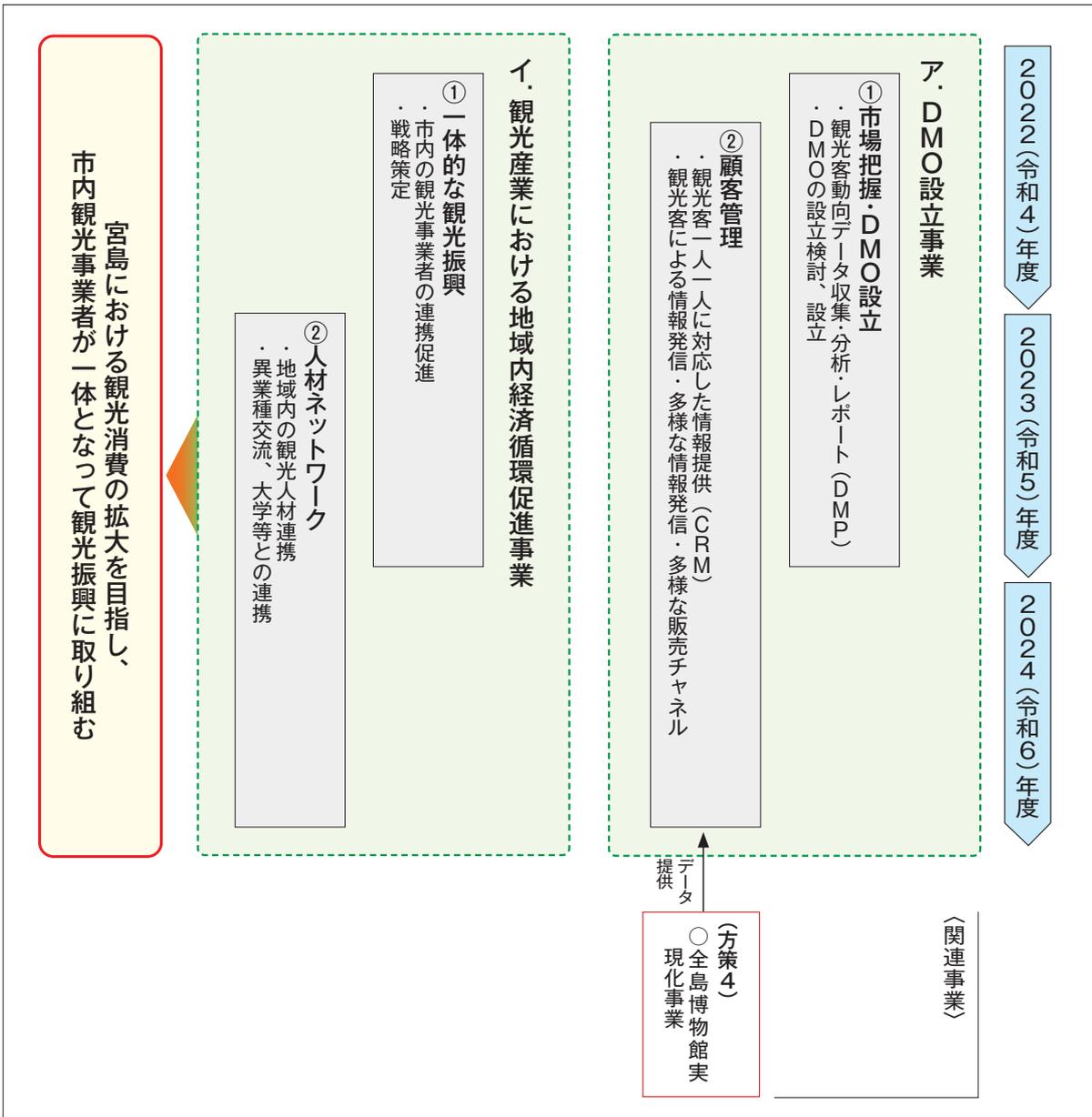
参考資料

宮島の観光産業の雇用創出に向けた施策の全体像



(方策6) 観光推進体制の整備

令和3年度より検討を開始した観光推進組織（DMO）について、設立に向けた検討を継続的に実施し、令和6年度の設立を目指します。また、市場調査、多様な観光関係者の連携、観光人材ネットワークの構築、マーケティング等を進め、DMO設立後はDMOにより事業展開を図ります。



【具体的事業】

A. DMO設立事業

①市場把握・DMO設立

廿日市市の観光振興のための観光地域づくり法人（DMO：Destination Management / Marketing Organization）の設立に向けて取り組みます。設立に際しては、市内観光事業者を交えた勉強会を開催しつつ、DMOに求められる機能やその運営方法・事業モデルの検討、人材確保等を行います。また、具体的事業としては、多様な関係者の連携を促す取組、地域資源の発掘・磨き上げ・商品化・販売、観光客動向ビッグデータの収集、DMOが活用可能な観光統計データベースの開発・運用等、DMP（Data Management Platform）として観光関係データベース収集・分析事業を行います。

②顧客管理

観光地経営の観点から、地域の顧客として観光客データを扱い、観光客一人一人に対応した情報提供（顧客関係管理（CRM：Customer Relationship Management））を行います。そのことにより、観光客による情報発信に繋げ、多様な情報発信・多様な販売チャネルの獲得を図ります。

参考資料

観光地域づくり法人（DMO）

観光地域づくり法人（DMO：Destination Management / Marketing Organization）は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。このため、観光地域づくり法人が必ず実施する基礎的な役割・機能（観光地域マーケティング・マネジメント）としては、以下の点が挙げられます。

- (1) 観光地域づくり法人を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- (2) 各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立
- (3) 地域の魅力の向上に資する観光資源の磨き上げや域内交通を含む交通アクセスの整備、多言語表記等の受入環境の整備等の着地整備に関する地域の取組の推進
- (4) 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーション

また、観光地域づくり法人は、「持続可能な観光地域づくり」や閑散期対策などの需要の平準化など「観光地域全体のマネジメント」の観点での取組も必要であり、さらに、災害等の非常時における訪日外国人を含む旅行者への情報発信や安全・安心対策について、自治体等と連携して取り組む

ことも必要となります。

加えて、地域の官民の関係者との効果的な役割分担をした上で、例えば、着地型旅行商品の造成・販売やランドオペレーター業務の実施など地域の実情にに応じて、観光地域づくり法人が観光地域づくりの一主体として個別事業を実施することも考えられます。



(出典) 観光庁

Ⅰ. 観光産業における地域内経済循環促進事業

① 一体的な観光振興

飲食店や宿泊施設では可能な限り地元産の食材を活用する取組を進めるなど、地域外から訪れる観光客の消費（地域外貨）を地域内で循環させることで、地域外への漏出（リーケージ）を最小化させ、経済的な持続可能性を高めます。例えば、吉和のワサビやルバーブ、野菜などを宮島・宮島口の宿泊施設で扱う等、廿日市市内の農産品、加工品を観光地である宮島・宮島口の施設で利用できるよう、流通経路・手段を検討します。

② 人材ネットワーク

市内の観光コンテンツの強化、事業者連携による滞在型観光の推進、観光産業振興を図るため、廿日市市内の多様な事業者の連携・つながりづくりを推進します。宮島エリア内及び廿日市市内の観光人材のネットワークを形成し、異業種交流や大学との連携も進めることにより、相互に情報交換・意見交換を行うことで観光地のレベルアップを促します。

廿日市市観光振興基本計画に描かれている移住促進を見据えた観光振興の方向性も考慮し、稼ぐ視点、地域にお金を循環

環させる視点、雇用創出の視点で観光産業振興を推進し、移住促進にもつなげる取り組みを進めます。

参考資料

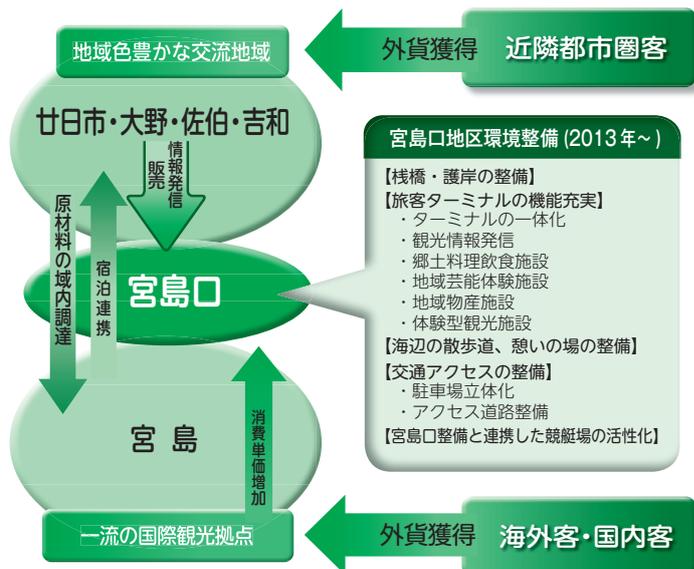
廿日市市観光振興基本計画における市内経済循環の考え方

廿日市市観光振興基本計画においては、基本方針3に市内経済循環の考え方が示されており、左記のような記載となっています。

観光客数の量的拡大よりも質的向上を目指す宮島においては、自然を活用したアクティビティの充実や、早朝・夜間の魅力づくりを進めることで、滞在時間の延長を図り、観光客一人あたりの消費額と宿泊客の増加を追求する。ただし、宮島内では宿泊収容力に限界があるため、本土側地域の宿泊機能とも連携して宿泊客の受け入れを図り、廿日市市全体としての経済効果を高めることを目指す。

さらに、宮島島内で提供・販売される料理や土産物について、付加価値がある商品等を廿日市市全域から調達することで、地域経済循環の割合を高める。

宮島と市内各地域をつなぎ、集客と経済効果を高める考え方



(出典) 廿日市市観光振興基本計画

5

参考資料

- ・宮島ルネサンス計画策定検討会設置要綱……………46
- ・宮島ルネサンス計画策定検討会開催経緯……………46
- ・宮島ルネサンス計画策定検討会 名簿……………47



5 参考資料

宮島ルネサンス計画策定検討会設置要綱

(目的)

第1条 コロナ禍による観光産業への影響が大きい宮島地域について、ポストコロナを見据えたルネサンス(再生、復興)計画の策定を検討するため、宮島ルネサンス計画策定検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項について、意見の交換、調整等を行う。

- (1) 宮島ルネサンス計画の検討案
- (2) その他宮島ルネサンス計画の素案の作成に係ること

(組織)

第3条 検討会は、次の各号に掲げる者のうちから20名程度の構成員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 観光・交通関係事業者
- (3) 宮島・宮島口地域関係団体及び事業者
- (4) 観光関連団体の職員
- (5) 関係行政機関の職員
- (6) その他構成員として必要と認める者

(事務局)

第4条 検討会の事務局は、廿日市市環境産業部観光課に置く。

2 検討会に係る庶務は、事務局において処理する。

(その他)

第5条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、令和3年11月30日から施行する。

宮島ルネサンス計画 策定検討会開催経緯

■第1回

日時..令和3年12月21日(火) 15時~17時
場所..etto宮島交流館2階ホール

■第2回

日時..令和4年3月18日(金) 14時~16時
場所..etto宮島交流館2階ホール

宮島ルネサンス計画策定検討会 名簿

事務局	区分		氏名
	学識経験者	役職等	
宮島・宮島口 地域関係団体 及び事業者	観光・交通 関係事業者	東京経済大学 コミュニケーション学部 教授 株式会社 JTB 広島支店 副支店長(営業統括) 西日本旅客鉄道株式会社 営業本部 広島営業部長 広島電鉄株式会社 地域共創本部 地域共創事業部地域交流事業課長 日本航空株式会社 JALふるさとランバサダー 宮島地域コミュニティ推進協議会 会長 宮島表参道商店街 会長 宮島旅館組合 組合長 宮島口みらい協議会 会長 宗教法人大願寺 住職 宗教法人大聖院 副住職 宮島ホテルまこと 取締役 株式会社鳥居屋 専務取締役 有限会社紅葉堂 代表取締役 一般社団法人宮島観光協会 専務理事 一般社団法人はつかいち観光協会 事務局長 宮島町商工会 事務局長 一般社団法人広島県観光連盟 カスタマーコミュニケーション事業部長 中国運輸局 観光部 観光地域振興課長 株式会社中国放送 テレビ局 編成制作部 次長	中村 忠司 濱田 充 辻本 建 諏訪 正浩 真辺 麻未 正木 文雄 木村 力 有本 隆哉 上野 純一 平山 真明 吉田 大裕 梅林 文子 佐々木 健一 竹内 基浩 上野 隆一郎 高橋 久夫 山本 卓士 新矢 敏浩 秋本 由美 松本 清孝
	その他	松本 清孝	
	関係行政機関	松本 清孝	
	観光関連団体	松本 清孝	
	その他	松本 清孝	
	事務局	松本 清孝	

宮島ルネサンス計画
厳島宣言

令和4(2022)年3月

発行 廿日市市

〒7338-8501

広島県廿日市市下平良一丁目11番1号

TEL: 0829120000

FAX: 08291321059

編集 廿日市市観光課



大島屋額表

龍の宮
白糸の瀧

家舞

山重り

石馬

瀧の

白糸の

穴水

又

玉

水

花

玉

花

玉

花

玉

花

玉

花

玉

花

玉

花

玉

